



富山市の遺跡物語



発掘で掘り出した貴重な九谷焼を見学する八幡小学校6年生児童

東日本大震災から2年目の3月11日、八幡小学校の6年生児童20名が、富山市役所1階で開催された発掘速報展2012「いにしえ人の暮らしと交流」を見学しました。前年7月には、猛暑の中、学校敷地内で今市遺跡の発掘体験を経験しました。その時に掘り出した土器や陶磁器が見事に復元された様子を見て、感動を味わってくれたようです。この貴重な体験を思い出し、八幡小学校を無事卒業されました。

目 次

史跡この1年	2	X 組織・事業費	34
埋蔵文化財発掘調査概要報告	4	八幡小学校6年生の今市遺跡発掘体験記	35
事業概要		研究会話	
I 調査一覧	16	I 富山市二本榎遺跡SZ01の横穴式石室について（小黒智久）	38
II 遺跡地図管理	20	II 出土品から見た富山市北東部の植物利用（納屋内高史）	45
III 史跡の保護・管理	22	III 「中世富山城推定地」から「千石町遺跡」へ（鹿島昌也）	48
IV 展示・普及	27	IV 富山町石工佐伯伝右衛門について（古川知明）	50
V 刊行物	30		
VI 活用	31		
VII 調査研究	32		
VIII 研修等参加	34		
IX 寄贈	34		

北代縄文広場この1年－平成24年度－

北代縄文広場の管理運営は、長岡地区自治振興会に委託しています。広場や史跡北代遺跡の説明、縄文土器づくりや火起こしなど体験学習のお手伝いは、北代縄文広場ボランティアの会が行っています。

平成24年度は復元した高床建物の修理工事を行ったほか、長岡地区自治振興会の恒例行事「北代縄文サマーフェスタ」・「縄文冬まつり」・「縄文朝市」等、多くの行事が開催され、市民の交流に活用されました。また、中学2年生が学校外で就業体験等の活動を行う「社会に学ぶ 14歳の挑戦」として、呉羽中学校4名、奥田中学校4名を受け入れました。

復元高床建物の修理工事が完成しました！

発掘調査では4棟以上の高床建物（掘立柱建物）が確認されています。広場では実物大の立体復元を1棟、平面表示を1棟行っています。

茅葺きの高床倉庫は平成16年に葺き替えました。7年が経過し、柱や梯子なども木材腐朽菌や昆虫によって傷んできましたから、劣化した部分を取り替えました。

木材等の専門家の指導を受けながら、15～20年の耐久期間を目標として、主柱など木材の保護対策を講じ、茅も厚く頑丈に葺き直しました。新しくなった高床倉庫に登って、縄文人の暮らしに思いを馳せてみませんか。



社会に学ぶ 14歳の挑戦－呉羽中学校・奥田中学校生徒の活動－

広場の管理運営を体験しました。ボランティアに手ほどきを受け、来場者への出土品展示解説、紙芝居読み聞かせなどの練習を重ね、実際に案内しました。

また、縄文土器づくり用の粘土をこねる下準備を行いました。除草などの地道な作業も行い、来場者を迎える苦労とやりがいを感じました。

来場者からいただいたねぎらいの言葉から、達成感も得たようです。



北代縄文サマーフェスタを開催しました！

平成24年8月19日

縄文土器づくり、縄文グッズづくり、野焼き、ミニ企画展「富山地域の縄文遺跡(2)百塚遺跡」の解説、修理工事を終えた土屋根竪穴住居の解説、八尾吹奏楽団や二胡演奏の歩歩のコンサート、写生大会、フォトコンテストなど多彩な催しが開催されました。

野外でのすばらしい演奏に、参加者は皆時が過ぎるのも忘れて聞き入っていました。写生大会やフォトコンテストの優秀作品は秋の長岡地区文化祭で展示され、史跡を活用した生涯学習が推進されました。

(小黒智久)



安田城跡歴史の広場この1年－平成24年度－

安田城跡歴史の広場は、市内の小学校をはじめとする学習活動だけではなく、四季折々の風景を楽しむことができる憩いの場となっています。曲輪をめぐる水堀は睡蓮の名所となっており、見頃となる6月には色とりどりに咲く花を目当てに多くの人々が訪れます。4月には野鳥が飛来し、冬期には雪化粧の立山連峰をバックにした城跡が眺望でき、撮影・写生スポットとしても親しまれています。

また、地元朝日地区の行事会場としても活用され、地域活性化や生涯教育の場となっています。平成24年8月25日には、毎年恒例の「第20回安田城月見の宴」(安田城月見の宴実行委員会主催)が開催され、戦国時代ながらの少年少女武者行列や剣舞、民謡などで賑わいました。



平成24年6月19日・20日

社会に学ぶ 14歳の挑戦

奥田中学校2年生4名が、管理運営業務を体験しました。

展示品や映像で史跡の概要を学習した後、資料館の展示ケースや窓などを丁寧に掃除したり、広場の草むしりなどの裏方の仕事に汗を流しました。初めての仕事に、最初はとまどいの表情をみせていた生徒らでしたが、次第に自ら進んで館内を案内する姿もみられ、来館者からねぎらいと感謝の言葉が寄せられました。

お城をもっと楽しもう！～ペーパークラフト作製体験(富山城櫓御門)～ 平成24年8月10日

夏休みイベントとして、富山城のペーパークラフト作製体験を開催し、市内在住の親子25名が参加しました。

ペーパークラフトは、江戸時代の富山城に実際に存在していた二ノ丸二階櫓門をもとにして作ったもので、大きさは幅30cm、奥行き20cm、高さ9cmです。



参加者は親子で協力しながら、石垣や土塀、屋根などの部品を根気よく組み立て、約2時間かけて櫓門を完成させました。お城への関心が深まり、イベント終了後には櫓門のあった富山城まで足を伸ばす計画を立てる親子もいました。

「お城をもっと楽しもう！～安田城の縄張り図作製体験～ 平成24年10月13日

北陸城郭研究会会員で、縄張り図作製のスペシャリストである佐伯哲也氏を講師に迎え、安田城の縄張り図作製体験を実施しました。

まず、資料館内で安田城跡の概要と縄張り図の描き方を学びました。その後実際に曲輪に出て、土星などの大きさを歩いて測り、輪郭や地形の起伏を表す「ケバ」を描いていきました。どの参加者も縄張り図作製は初体験でしたが、講師の手ほどきを受けながら、約1時間かけて本丸の縄張り図を完成させました。



じっくりとお城を堪能した貴重な体験となりました。

(大野英子)

調査概要報告 1 縄文時代晚期～鎌倉時代の集落

豊田大塚・中吉原遺跡

(豊田本町3丁目)

1 遺跡のあらまし

この遺跡は、神通川右岸の平野部に位置し、標高7～8mの微高地に立地する、縄文～近世の集落跡です。発掘地点は当初「豊田中吉原遺跡」でしたが、北側にある「豊田大塚・中吉原遺跡」と一連の遺跡と考えられたため、「豊田大塚・中吉原遺跡」に含めました。

平成7年度に店舗建設に伴う発掘調査で、弥生時代終末期（約1,800年前）・平安時代（約1,100年前）の遺構・遺物が見つかっています。

弥生時代終末期には、谷に赤く塗られた土器や供え用の土器がまとまって廃棄されており、水辺の祭祀場であったと推測しています。平安時代には、谷が埋まった跡に溝が作られました。この溝から富山市で初めての人面彫書土器や人形、蓑串といった律令祭祀に使用する遺物が出土しました。本遺跡の北方約1.2kmに新川郡家と比定される米田大覚遺跡があり、本遺跡は新川郡家の祭祀場と考えられます。

周辺の遺跡には、本遺跡の南東約0.5kmに弥生時代中期（約2,000年前）の集落である豊田遺跡、北東約0.6kmには古墳時代前期（約1,700年前）の方墳ちょうちょう塚があります。

2 調査の概要

今回の調査は、立体駐車場建設工事に先立つ発掘調査です。9月～10月にかけて調査を行い、縄文時代晚期（約2,400年前）、古墳時代前期、平安時代、鎌倉時代（約800～700年前）の遺構が見つかりました。出土遺物には、縄文土器、古式土師器、須恵器、土師器、中世土師器、珠洲、漁戸、磨製石斧、五輪塔、土鍤、建築部材などがあります。



古墳時代前期の竪穴住居



完掘写真（上空から）

3 縄文時代のようす

調査区北端に谷があり、その中から縄文時代晚期の土器・石器（打製石斧・磨製石斧・石鏡・石皿など）が出土しました。この谷を道具の捨て場としていたと考えられます。

4 古墳時代の集落のようす

古墳時代前期の遺構は、竪穴住居2棟、土間の床のある竪穴状土坑2基、廃棄土坑、溝、谷があります。

竪穴住居は、一辺5mの隅丸方形のもの

を2棟検出しました。叩き土間の床面が構築された長方形の整穴状土坑が2基見つかりました。1基は6.33m×5.0m、もう1基は9.17m×5.33mの大きさです。

調査区北端の谷には、赤く塗った土器や供え用の土器が多量に廃棄されており、水辺の祭祀場と推定されます。本調査区の北東側約200mの平成7年度調査区で見つかった弥生時代終末期の祭祀場と続いていると推定されます。



谷に廃棄された土器

5 平安時代のようす

平安時代の遺構は、掘立柱建物3棟があります。1棟は3間×2間以上の東西に長い側柱建物で、地下水位が高い土地であることから、柱根2本が残っていました。もう1棟は2間×2間以上の総柱建物で、柱根が2本残っていました。1棟は2間×2間以上の掘立柱建物で、柱根が1本残っていました。

6 鎌倉時代の集落のようす

鎌倉時代の遺構は、掘立柱建物1棟、平行に走る溝、溜め池状土坑があります。

掘立柱建物は2間×3間の南北に長い側柱建物で、行間に沿って外側に雨垂れ溝が掘られています。

調査区中央には東西方向に平行に走る溝があります。溝と溝の距離は5.5mを測ります。道路側溝と考えられます。

平行する溝が埋没後、東西方向の溝がつくられました。この溝は調査区西端にある湧水地まで掘られた溜め池状土坑と繋がっており、用水路のような水を供給する役割を持つ溝であったと考えられます。



雨垂れ溝を持つ側柱建物



近畿地方と北陸地方の折表型土器

7 近畿地方との交流を示す資料

古墳時代前期の壺には、北陸地方で見られる土器の形や文様をした胴部に、近畿地方の希留式の特徴がある口縁部がついているものがありました。近畿地方の人々が富山に来て、この地の粘土で土器を作成したもので、両地域の折衷型と言えます。人々の直接的な交流を示す資料として貴重といえます。

(堀内大介)

1 遺跡のあらまし

(堀川町地内)

この遺跡は、神通川の支流土川右岸の扇状地上、標高 28m に立地する、古代から中世の集落跡です。

平成 23 年度には、朝菜町公園整備工事に先立つ試掘調査で、古墳時代の溝、奈良～平安時代の堅穴建物・掘立柱建物、中世の溝・旧河道跡が見つかり、集落の大きな広がりが確認されました。本遺跡の南東 250m にある大規模な上新保遺跡と同時期に営まれた開墾集落と考えられます。

2 調査の概要

公園内施設建築に先立つ発掘調査を 8 月に行いました。面積は 30.8 m² です。平安時代（約 1,200 年前）の掘立柱建物跡 2 棟・溝 1 条・土坑・柱穴が見つかりました。出土遺物には須恵器・土師器・灰釉陶器・製塩土器・土鍤・鉢・輪の羽口があります。

3 平安時代の掘立柱建物

掘立柱建物跡の一つは、4 本の主な柱穴と補助的な柱穴 1 本があり、総柱建物と考えられます。柱穴の深さは 70 cm ほどで、柱は抜き取られていました。抜き取った後の穴の中には、土師器の壺の下半部・杯が入れ置かれており、建物解体に際して儀式を行ったと考えられます。建物が解体された年代は、9 世紀後半から 10 世紀頃です。

4 製塩土器の出土

土坑の上部からは、製塩土器がまとまって出土しました。バケツのような深鉢形の平底土器で、外面には薄く焼が付着しています。

今回見つかった製塩土器は少なくとも 3 個体以上あります。炉など製塩を行うための遺構は見つかっていないことから、集落内で製塩が行われたのではなく、海岸部で海水を煮詰めて塩をつくり、できた塩が入ったまま容器として消費地である内陸の集落へ運び、取り出していたことが考えられます。また、調査区からは土鍤（網のおもり）も多く出土しており、河川漁業にも携わっていました。

本遺跡の所在する富山市南部の扇状地では奈良後半～平安時代前半にかけての農地の開墾が盛んに行われました。開発の中心的役割を担っていた上新保遺跡や任海宮田遺跡とともに、本遺跡も開発の一端を担っていたと考えられ、古代の社会状況を解明する貴重な資料となりました。

(近藤順子)



平安時代の掘立柱建物の柱穴



製塩土器の出土状況

1 遺跡のあらまし

この遺跡は海岸から2kmの平野部に位置し、神通川旧河道に面した標高5～6mの河岸段丘上に立地します。今市遺跡は、約300haに及ぶ広大な面積を有し、今回の調査地のある八幡をはじめ、今市・布目・八町・寺島の5つの集落を含みます。

2 調査の概要

富山市立八幡小学校体育館改築工事に先立ち850m²を対象に発掘調査を実施したところ、平安時代前期（1,100年前）、江戸時代後期（300年前）、明治～昭和時代の遺構・遺物が見つかりました。

平安時代前期には、竪穴住居3棟・掘立柱建物4棟・道路状遺構、江戸時代後期には溝・土坑・柱穴、明治～昭和時代には、昭和17年以降建築された八幡国民学校の基礎部分が見つかりました。



発掘調査区（南上空から）

3 古代道路に面した集落（平安時代：9世紀後半）

3棟の竪穴住居にはいずれも柱穴がなく、住居の四辺に周壁溝と呼ばれる溝が廻っており、壁で屋根を支える構造の建物だったことが推定されます。

竪穴住居の1棟では、床を作る際に「由」と書かれた墨書き土器が埋められていたことが分かりました。「由」の文字を記した墨書き土器の出土は県内からは初めてです。近隣では新潟県長岡市の古代の役所跡と推定されている八幡林遺跡から多数出土しています。

一方調査区の東端では、2条1組の溝が幅5～6mの距離をおいて南北方向に並走していることが確認されました。この溝は古代道路の側溝と推定されます。

神通川旧河道の河岸段丘上には、奈良時代から古代射水郡寒江郷に関連する村々が形成されました。平安時代前期に丘陵やその縁辺部から平野部へ開発が進んでいったことを物語っています。



墨書き土器「由」



竪穴住居と掘立柱建物

4 北陸街道に面した屋敷地（江戸～明治時代：18～19世紀）

溝は江戸時代の屋敷地割を区画したものと推定されます。この溝は、現在の市道と並行しています。この市道は、江戸時代の北陸街道（往還道・草薙道）と推定されており、加賀藩が参勤交代の際に高岡から魚津へ向かうための重要な道でした。屋敷地は北陸街道に面し、加賀藩領と富山藩領の境界に近い

ことから、通行の許可が下りるまでの休憩所などとしての役割が推測されます。明治時代の古い地割図をみると、周囲が耕作地なのに対して、この体育馆のある場所だけ宅地となつ

ており、早くから何らかの屋敷地があったと推測されます。

また、明治期になってから製作された湯呑みには、「梅鉢文」や「吳羽」と朱書きされた文字、「九谷」の印刻、参勤交代の様子が描かれていました。加賀藩が参勤交代に利用した御成道だったことを彷彿とさせる一品で、注目されます。

湯のみ（「九谷」印刻、「吳羽」朱書、梅鉢など）



5 八幡国民学校創立（昭和時代：20世紀）

昭和 17 年に、この地に八幡国民学校の新校舎が建築されました。調査では、校舎の基礎とみられる 6 列のコンクリート基礎を部分的に確認しました。その基礎は 30~40cm の厚さで、栗石（川原石）を敷き、その上に径 5~10cm の円い礫を混ぜた高さ 30cm のコンクリートをのせています。基礎の周辺からは、地面に掘られた穴を多数検出し、学校で使用されていた硯やガラス瓶などの文房具、火鉢、七輪、食器が見つかりました。

注目されるのは、昭和 16 年～20 年の戦時中のみ生産された統制番号の付けられた焼き物「統制陶磁器」が数点出土したことです。写真の焼き物は、戦時の缶詰めの代用品として生産され、「防衛食器」と呼ばされました。側面に「國民食」と表記

され、底部には統制番号が「岐
1204」と表示

されています。番号から、この器が岐阜県内の東濃地域で生産されたことがわかります。この統制陶磁器は、長い日本の陶磁史上で唯一生産者と生産時期が特定できる貴重な資料です。

当時の陶磁器の生産体制や製品の流通、戦時下の暮らしぶりを知る上で重要な成果が得られました。

（鹿島昌也）



「国民食」と記された防衛食器



昭和 36 年頃の校舎（丸印付近を発掘）



発掘された国民学校の基礎

調査概要報告4

古代の土木工事の跡か

宮条南遺跡

1 遺跡のあらまし

この遺跡は、常願寺川左岸下流の扇端部、標高 6mに立地する縄文～近世の集落跡です。これまでには場整備に伴う調査で室町時代の遺構が見つかっていました。

2 調査の概要

個人住宅建築工事に先立つ発掘調査を 10月～11月に行い、平安時代（約 1,200 年前）の波板状凹凸面を伴う溝、溝、土坑などが見つかりました。出土遺物には須恵器・土師器、中世土師器、珠洲、青磁、越中瀬戸があります。



調査区全景（南西から）

3 波板状凹凸面を伴う溝

波板状凹凸面を伴う溝は、調査区中央部の斜面部分を中心に見つかりました。

波板状凹凸面とは、円形や橈円形のくぼみが一定の間隔で並ぶ造構です。道路造構に伴うことが多いですが、今回見つかった造構は、道ではなく地盤を改良する目的か、斜面を上り下りするための足掛けの可能性があります。

これが見つかった場所は、集落の南東のはずれに当たると推定されます。（細辻嘉門）

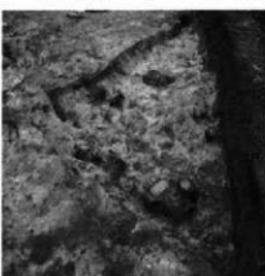
調査概要報告5

土器生産工人の生活の場

西金屋・西金屋窯跡

1 遺跡のあらまし

この遺跡は、真羽丘陵の西麓、標高 18mの低い尾根上に立地する、縄文時代の集落・奈良時代～平安時代の窯跡です。平成 5 年には市道拡幅工事に伴う調査で、奈良時代（約 1,250 年前）の須恵器窯 1 基と灰原・粘土採掘坑群が見つかりました。平成 23 年には今回調査区の北東で個人住宅建築に先立ち発掘調査を行い、奈良時代の土師器焼成造構 3 基・堅穴建物・掘立柱建物などが見つかりました。



奈良時代の土坑

2 調査の概要

個人住宅建築に先立つ発掘調査を 11 月～12 月に行い、奈良時代の土坑などが見つかりました。出土遺物には縄文土器、弥生土器、須恵器・土師器があります。

3 工人たちの生活した家か

調査で見つかった土坑は、大きさが長軸 2.3m、短軸 1.8m、深さ 0.25mで、平面形は隅丸方形です。中からは土師器が出土しました。炉跡は見つかりませんでしたが、大きさや平面形から堅穴建物と考えられ、須恵器を製作・焼成した工人たちの生活した家と推定されます。

奈良時代には、高台上に工人の集落が広がり、谷沿いに須恵器や土師器を焼いた窯が築かれ、周囲の低地に材料となる粘土を探った穴が点在する集落構造が復元されます。（細辻嘉門）

(婦中町熊野道地内)

1 遺跡のあらまし

この遺跡は、井田川左岸の河岸段丘上に位置し、標高28~30mの微高地に立地する、弥生時代~近世の複合遺跡です。発掘地点は当初「翠尾I・南部I遺跡」でしたが、「翠尾I遺跡」と「南部I遺跡」とは別々の性格の遺跡とわかつたため、「南部I遺跡」としました。

個人住宅建築、豪華装飾に伴う発掘調査で、弥生時代終末期~古墳時代前期(約1,800~1,700年前)、奈良・平安時代(約1,250~1,100年前)、室町時代(約650年前)の集落跡が見つかっています。弥生時代終末期~古墳時代前期の集落は、本遺跡の北東約3.5kmに位置する史跡王塚・千坂山遺跡群と関連性が高い集落です。

2 調査の概要

下水道管布設工事に伴う工事立会調査を、3月~5月、8月~10月に行い、弥生時代終末期~古墳時代前期の堅穴住居、土坑、柱穴、溝、河川跡が見つかりました。集落は、南北約230mの大規模な範囲に及び、堅穴住居を11棟(方形10棟、円形1棟)検出しました。住居の規模は方形のものは一辺3~10m、円形のものは直径8m以上です。

集落の南東側には幅約28mの河川跡が見つかりました。河川跡の西方700mには、現在井田川が流れています。見つかった河川跡が当時の井田川だった可能性があります。

川底からは、赤く塗った土器や供え用の土器がまとまって出土しました。川の神に祈りを捧げる祭事が川辺で行われた後に、これらの祭り用の土器を廃棄したものと考えられます。



弥生時代終末期の堅穴住居

3 東海地方と交流か

廃棄された土器の中に、底部に台が付き、口縁部がSの字状に折れ曲がる特殊な甕が含まれていました。これは「S字甕」と名付けられており、主に東海地方に分布します。富山県内では、富山市八町II遺跡で小破片が1点あるのみで、全体の形が分かるものが出土したのは、県内で初めてです。

土器の原料の粘土を科学分析した結果、粘土は県内産であることが判明しました。このことは、東海地方の人々が富山に来て、この地の粘土で土器を作成したことを物語っています。また別の土器には東海地方産の粘土が使われたものがあり、持ち込まれた土器もあったことがわかります。

この集落の人々は、東海地方の人々と互いに人的交流を持っていたことを示しています。
(堀内大介)



東海系のS字甕(左:口縁部・胴部、右:底部)

調査概要報告7 まちなか地下1mの城・城下町

富山城跡

1 遺跡のあらまし

平成24年6月～11月にかけて、富山市本丸・大手町・総曲輪地内で実施された水管敷設替・新設工事に伴い工事立会いを行ったところ、地下1m以下に江戸時代以前の遺構や遺物が良好な状態で残っていることを確認しました。

2 ①地点の調査

国道41号線をはさんで北側と南側で工事が実施されました。この地点では、江戸時代の地層より上に、明治33年の大火の際の炭や焼け土が厚く堆積している状況を確認しました。一方国道から南側では、中世五輪塔の火輪や水輪、灯明皿、越前焼等がまとまって出土しました。ここは江戸時代前期以降は武家地で、それ以前は寺院に関係する施設があったと推定されます。

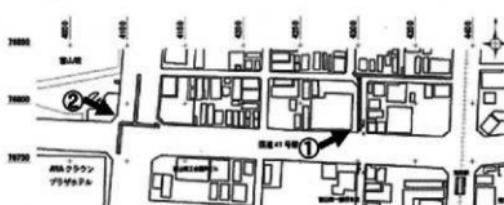
3 ②地点の調査

ここは二の丸の曲輪があった場所です。地下1m付近に整地層や穴などの遺構、長さ1mほどの細長い川原石などが見つかり、二の丸に関連する遺構が残っていることが明らかになりました。

(鹿島昌也・納屋内高史)



工事立会で出土した遺物



工事立会調査位置図



①地点：総曲輪1丁目 土層堆積状況



②地点：城址公園交差点

遺構検出状況

調査概要報告書 戦国時代の堀跡・曲輪を確認

新庄城跡

1 遺跡のあらまし

この遺跡は現在の富山市立新庄小学校一帯に位置し、付近には「古城削」などの小字名が残っています。かつては「御屋敷山」と呼ばれる小高い所があったようです。新庄町付近は富山と魚津を結んだ旧北陸街道に面し、古くから交通の要衝でもありました。

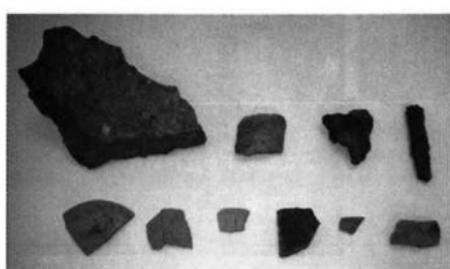
新庄城は、『越中古城記』に「本丸東西七十五間・南北六十七間、堀幅六間、二ノ丸三十間四方程」とあり、本丸と二ノ丸からなる平城だったと推定されます。

2 戦国期における新庄城の攻防

新庄城が戦国期に初めて登場するのは、永正17(1520)年で、越後の長尾景虎が陣を構えたようです。永禄から元亀(1558~1572)にかけて、椎名氏方にあった新庄城に越後の上杉謙信が攻め入り、謙信はここから富山城の一一向一揆を攻めるなど、その後は上杉方の拠点となりました。天正6(1578)年、謙信が亡くなると北陸をうかがう織田方と新庄城をめぐる攻防が激しくなります。同年には越中へ進出した織田方の神保長住が攻め、織田方の拠点ともなり、同9年には謙信の後を継いだ上杉景勝方と富山城主佐々成政が荒川を舞台に激戦が展開されたとも伝わっています(荒川の合戦)。同15年に成政が肥後國に移されてからは、前田利家の所有となり、元和元(1615)年、一国一城令によって廃城とななりました。その後、加賀藩三代藩主前田利常によって御陣屋が修繕されたようです。

3 調査の概要

平成25年1月に新庄小学校体育館改築に先立つ給排水管路掘削の工事立会を実施したところ、戦国時代~江戸時代の遺構・遺物が見つかりました。現在の地表面から30~50cm以上掘り下げたところ、黒灰色の堀の堆積土や曲輪の一部とみられる黄褐色の整地土を確認しました。曲輪とみられる整地土は複数層確認でき、何度か普請を行ったことがわかります。遺構は良好な状態で残っていると考えられます。



新庄城跡出土遺物



堀の肩(手前)と曲輪の遺構(奥)
東から

出土した遺物には中世土器や珠洲焼、青磁、八尾焼、石鉢、刀子のほか鐵製品を生産するための鍛冶工房の存在を示すフイゴの羽口や鐵滓もみられます。

今回の調査では、新庄城の遺構・遺物を初めて確認することができました。今後、城の規模や変遷など具体的に解明していくことが期待されます。

(鹿島昌也・新川廣久)

(岩瀬古志町地内)

1 遺跡と調査のあらまし

この遺跡は、神通川河口左岸の砂丘内陸側に所在し、標高 1.3m の地点に所在します。

遺跡は昭和初期に湊氏によって発見され、県内における縄文時代晩期の標式遺跡として「岩瀬天神式」土器が型式設定され、学史上も重要な遺跡です。平成 4~7 年には、主要地方道富山・魚津線の北側で発掘調査を行いましたが、明確な遺構は検出できませんでした。遺跡の本体が残っているか、その場所はどこか謎のままでした。

平成 24 年 12 月から、主要地方道南側における排水路新設工事に伴い、立会調査を行いました。

調査地は富山市パークゴルフ場駐車場内です。



発見された竪穴住居跡

2 発見された遺構と遺物

縄文時代後期末から晩期の竪穴住居跡 4 棟、集石土坑 1 基のほか、縄文時代から近世に至る遺物を大量に含む流跡跡が見つかりました。

縄文時代の竪穴住居跡、集石土坑は、調査地の西側から見つかりました。これらの遺構は、黄褐色の粘土質の地山の上に形成されていました。

住居跡は計 4 棟見つかっており、形態は方形が 3 棟、円形が 1 棟です。このうち、方形の 3 棟が重複していました。方形の住居は、大きいもので幅 3m 以上、円形の住居は直径 3m 前後と推定されます。住居の壁の掘り込みは 10cm 程度と浅く、全ての住居で灰色の粘土を床に貼った土間が築かれていました。

出土した遺物は、埋土から出土したものは縄文時代後期末から晩期の土器で、特に晩期前葉のものが多くあります。また、石棒・石槍などの石器が出土したほか、緑色凝灰岩やヒスイなど製品の材料と考えられる石もあります。

集石土坑は住居に近接して存在し、大きさは長軸がおよそ 80cm、短軸がおよそ 40cm、深さは 15cm です。土坑内には奉天の内縫に混じって石皿や叩き石、石錐（網のおもり）が詰まっていました。

流跡跡は、調査地の西端から東に向かって見られます。幅は、広い部分でおよそ 3m、深さは約 30cm です。出土した遺物は、縄文土器が特に多く、弥生土器・土師器・珠洲・近世陶器があります。

3まとめ

今回の調査では、様々な遺構が見つかっており、初めて遺跡の一部を明らかにすることがきました。遺跡の発見者である湊氏の証言によれば、本遺跡の本来の所在地は通称「さんまい」（火葬場）と呼ばれる場所と考えられ、その東側にあった畠でも遺物が採取できたとされます。今回の調査地は「さんまい」の東側にあった畠の部分に当たると考えられます。その為、今回の調査結果は、湊氏が遺跡の本来の所在地と考えた場所付近の様相を明らかにしたと言えるでしょう。

県内では、平野部・海岸部の遺跡では遺構が発見されないことが多いため遺跡の様相があまり明らかになっていません。今回の調査はそれを考える上で重要な成果です。（納屋内高史）

調査概要報告 10 縄文前期の竪穴住居群を検出

小竹貝塚

(呉羽町北地内)

1 遺跡のあらまし

この遺跡は、呉羽町北に所在する縄文時代前期（約 6,000～5,500 年前）の貝塚です。

平成 20～23 年度に新鍛治川改修工事に伴う調査を行いました。これまでの調査成果から、北西部から南部にかけて貝層、中央部には居住域、南東部には木製品加工場・土器廃棄場として利用した谷が広がる集落構造をしていると推測しています。

貝層内からは縄文時代前期として全国最多の 70 体を超える埋葬人骨が確認されました。平成 23 年から平成 26 年にかけて国立科学博物館人類研究部を中心に、研究課題「北陸と九州から大量出土した縄文時代早・前期人骨の形態・DNA・食性分析」として、早・前期縄文人の生物学的実像を復元する研究を行っています。

2 調査の概要

引き続き新鍛治川改修工事に伴う工事立会調査を行い、3 層の遺構面に竪穴住居 3 棟、大型土坑、穴などの居住域の遺構を検出し、縄文土器（前期）、磨製石斧、凹石、敲石などが出土しました。竪穴住居は、中層で竪穴住居 2 棟が作られ、埋没後に上層で竪穴住居が作されました。

居住域の南東側にある谷縁辺部に竪穴住居群がつくられていることがわかつてきました。
(堀内大介)



折り重なる竪穴住居群

調査概要報告 11 室町～江戸期の集落のひろがりを確認

西二俣遺跡

(西二俣地区内)

1 西二俣遺跡のあらまし

この遺跡は、富山市西二俣地区内に所在する弥生時代から江戸時代の集落跡です。

今回の調査地点の北側で平成 17 年度に行った発掘調査では、室町時代から江戸時代の溝群・土坑を確認しました。溝群は遺跡東部を流れる新堀川（旧鍛治川）流路と同じ方向に延びていることから、川に沿った地割で集落が形成されていたと考えられます。

2 調査の概要

上下水道管の敷設に伴う工事立会調査を行い、地下 0.8～1.1m 付近で室町時代から江戸時代の溝群・井戸・土坑などを確認しました。遺物は平安時代の須恵器・土師器、室町時代の井戸構造・曲物・珠洲・かわらけ、江戸時代の越中瀬戸・伊万里があります。

調査地点は、建物跡等が未確認で、集落の縁辺部にあたると考えられます。平安時代から江戸時代までの遺物が出土しており、長期間にわたって付近に集落が営まれたことがわかりました。
(三上智大)



確認した井戸跡

1 吉野銀山遺跡の分布調査

分布調査とは田畠や山間部を歩いて地表に落ちている遺物や人工的に造られた地形を見きわめ、遺跡を見つける調査です。今年度は、神通狭の富山市吉野にある吉野銀山遺跡の分布調査を行いました。

遺跡は、神通川右岸の川べり（標高約 170m）にあります。対岸には庵谷・片掛銀山遺跡が所在します。吉野銀山の発見は天正元（1573）年とされています。慶長年間（1596～1615）が銀山の最盛期でした。その後も経営は続き、明治期にも採掘が行われました。銀山の近くにはかつて集落がありました。現在は水力発電所のダムにより水没しています。吉野銀山は、越中の主要七鉱山「越中七かね山」の一つに数えられています。

2 調査の概要

調査は、川べりや谷沿いを歩いて鉱石を探るための坑道の入口（坑口）や遺物が落ちている地点を確認しました。

その結果、坑口は 13ヶ所で見つかりました。ほとんどが神通川べりの岩壁に掘られていて、右の写真のように内部が崩落せず、旧状をよく留めているものもあります。江戸時代に集落があったダム水没箇所にも複数の坑口があったと推測されます。

鉱石から不純物を取り除く製錬作業を行ったとみられる地点も確認できました。この場所も大部分が水没していますが、鉱石を製錬する際に出る鉱滓、鉱石を割るために石のハンマーや陶磁器のかけらを拾うことができます。

対岸にある庵谷・片掛銀山の遺構が川べりから山間部まで広がるのに対し、吉野銀山は川べりに集中するのが特徴です。

3 富山市域の鉱山遺跡

本センターは、平成 22 年度から今年度まで富山市域にある鉱山跡 4ヶ所（庵谷銀山遺跡、長桜船山遺跡、庵谷・片掛銀山遺跡、吉野銀山遺跡）の分布調査を行ってきました。これまで考古学的な調査がほとんどなされてこなかったこの分野で、一部とはいえる実態が明るみになったことは大きな成果といえます。

いずれも江戸時代の加賀藩や富山藩の財政・産業を支えた重要な遺跡です。今後具体的な時期や性格を明らかにすることが課題です。（野垣好史）



坑道の入口（坑口）



製錬場跡で採取した遺物

（左上：陶器 右上：鉱滓 下：石のハンマー）

I 埋蔵文化財調査一覧

■調査対象 開削に先立ち、遺跡を記録保存することなどを目的とした調査です。

調査件名(遺跡No.)	所在地	調査原因	面積(m ²)	調査結果	遺跡の種類
今市(201010)	八幡	八幡小学校体育館改築工事	825	平安堅穴住居、平安難立柱建物、平安唐、江戸唐、近代土坑、昭和国民学校基礎／绳文(縄)土器、绳文(縄)石刀、平安須恵器、平安土師器、中世珠渦形、平安鐵、古土器、中世土師器、飛鳥白鳳須恵器、江戸陶器類、近代陶磁器、昭和瓦製陶器、昭和ガラス瓶、昭和鏡、昭和笛	集落・墓葬
宮条南(201043)	町役	自己用住宅建築	202.4	古代土坑、不明土坑、不明唐／弥生土器、古代土師器、古代須恵器、中世青磁、江戸磁器	集落・敷地
豊田中吉原(201107)	豊田本町3丁目	立体駐車場新築工事	1,031	弥生(縄)～古墳(前)堅穴住居、弥生(縄)～古墳(前)土坑、弥生(縄)～古墳(前)唐、弥生(縄)～古墳(前)往穴、古代難立柱建物、中世唐、中世土坑、伊佐桂六、中世難立柱建物／绳文土器、弥生(縄)弥生土器、古墳(前)古式土師器、古代土師器、古代須恵器、中世土師器、中世珠渦形、中世五輪塔、魏文廟製石斧、弥生(縄)～古墳(前)埴輪部材、不明鉄鋤頭	集落
西金屋・西金屋塙跡(201293)	古沢	自己用住宅建築	136.18	古代土坑、不明ピット／绳文土器、古代須恵器、古代土師器	集落・墓葬
御県町馬ノ木(201484)	福川町6丁目	朝東町公園整備工事	30.8	平安唐、平安土坑、平安難立柱建物、平安ピット／平安土師器、平安須恵器、平安灰釉陶器、平安製塗土器、平安土器、平安鐵滓、平安羽口	集落
計5件			2,225.38		

■調査対象 開発予定地内の遺跡の有無などを確認する調査です。＊は立案調査

調査件名(遺跡No.)	所在地	調査原因	面積(m ²)	調査結果
大村(201003)	海岸通古崎	浜東市貯蔵庫建築工事	283	江戸土坑、近代土坑／中世土師器、中世珠渦、江戸越中漆戸、江戸～近代陶器
真羽野田(201006)	真羽野田	農作業所建設工事	66.1	遺跡なし
今市(201010)	八町	自己用住宅建築	146.78	遺跡なし
今市(201010)	布目	自己用住宅建築	112.97	遺跡なし
今市(201010) *	八町	拂菻基地用地整理工事	1	遺跡なし
今市(201010)	八幡	八幡小学校体育館改築工事	3,025	平安土坑、平安唐、古墳(前)古式土師器、古代土師器、古墳土師器、江戸越中漆戸、江戸土人形、江戸陶器類、不明鉄滓
今市(201010) *	布目	市道10号線改良工事	25	平安土坑、平安唐、江戸唐／绳文土器、弥生土器、平安須恵器、平安土師器、江戸越中漆戸、江戸土人形、江戸陶器類、不明鉄滓
今市(201010) *	八幡	防災行政無線設置工事	4	古墳土師器、古代土師器
今市(201010) *	八町	ダイバービス・グループホーム併用施設建設工事	78.2	遺跡なし
今市(201010) *	今市	コンクリート柱延替え工事	1	遺跡なし
森(201019)	森4丁目	自己用住宅建築	401.21	弥生土器、江戸陶器
浜黒崎野田Ⅱ(201034) *	浜黒崎	市道浜黒崎横越藤原改良工事	95	遺跡なし
浜黒崎漁港(201036)	浜黒崎	自己用住宅建築	427.86	不明唐／なし
高島(201041)	高島	自己用住宅建築	315.71	遺跡なし
宮条南(201043)	町役	自己用住宅建築	314.56	古代唐、中世唐、不明土唐／古代須恵器、室町土師器、中世土師器
宮条南(201043)	町役	農業用倉庫改築工事	144.07	遺跡なし
宮条南(201043) *	町役	市道10号線改築工事	65.3	不明唐／不明土師器
水橋荒町・辻ヶ堂(201044)	水橋辻ヶ堂	自己用住宅建築	325.36	不明土坑／なし
水橋東出町(201046)	水橋中町字宮田	資材置場造成工事	1,190	遺跡なし
水橋水剣(201048)	水橋龍町字平岡	自己用住宅建築	569.04	遺跡なし
水橋小出(201056)	水橋小出	自己用住宅建築	179.04	中世土師器
水橋小池(201051) *	水橋小池・水橋五郎丸	農業用排水事業	50	遺跡なし
真羽本郷(201062)	本郷中郷	自己用住宅建築	315.11	中世珠渦、中世瀬戸美濃、中世青磁、中世白磁、中世漆器
真羽駅北(201065) *	真羽駅北	電柱延替え工事	1	遺跡なし
鶴海寺城跡(201066) *	鶴海寺水口	鶴海寺学校舎改築工事	2,878.01	遺跡なし
鶴海寺城跡(201066)	鶴海寺	自己用住宅建築	137.17	江戸越中漆戸
鶴海寺城跡(201066)	鶴海寺	自己用住宅建築	288	江戸唐、不明唐、不明土坑／江戸磁器
鶴海寺城跡(201066)	鶴海寺	自己用住宅建築	136.43	遺跡なし

源海寺庭跡(201066)	源海寺	飛特723寒江地理分区源海寺地区管渠施設(その11)工事	600.7 不明土坑、不明溝／不明廻中廻戸、不明伊万里、不明木(幕木?)
源海寺庭跡(201066)*	源海寺	飛特730寒江地理分区源海寺地区管渠施設(その13)工事	50 道跡なし
西二俣(201067)	西二俣	駐車場造成工事	579 江戸廻中廻戸、江戸伊万里、江戸唐津、江戸兩面器
西二俣(201067)*	西二俣	飛特735寒江地理分区西二俣地区管渠施設(その13)工事	461.9 中世井戸、中世溝、不明土坑、不明溝／中世井戸構柱、不明板材、中世伊万里、近世越中廻戸、古代須恵器、古代土器類、中世珠糸、中世曲物、中世土器器
西二俣(201067)*	西二俣	飛特736寒江地理分区西二俣地区管渠施設(その14)工事	186.5 弥生土器
西二俣(201067)*	西二俣	西二俣地区配水管渠改替(第1工区)工事	74.6 不明溝、不明ビット／江戸廻中廻戸、江戸陶器、不明土器質土器
東老田(201072)	東老田	自己用住宅建築	45.6 古墳(中)粘土抹離坑／古墳(中)吉式土器器、古代須恵器
東老田(201072)*	東老田	飛特762浜羽第3地理分区東老田地区管渠施設(その16)工事	259.3 弥生土坑、中世土坑、中世溝、不明土坑、不明溝／弥生土器、中世土器器、中世珠糸、中世青磁、古代須恵器
東老田(201072)	東老田	個人住宅建築、車庫建物工事	54.65 道跡なし
中老田町(201077)	中老田	飛特718浜羽第3地理分区中老田地区管渠施設(その17)工事	273.9 道跡なし
中老田町(201078)*	中老田	飛特714浜羽第3地理分区中老田地区管渠施設(その16)工事	240.2 道跡なし
垂水中央寺(201106)	北代	市道北代3号線改良工事	40 道跡なし
*			
垂水萬福寺(201106)	北代字村番	自己用住宅建築	264.46 道跡なし
長岡字杉林(201127)	長岡字杉林	自己用住宅建築	309 古代窯、古代穴ノ彌文土器、古代土器器、古代須恵器
山寺谷(201137)	黄羽町字一ツ谷	自己用住宅建築	114 道跡なし
追分茶屋(201149)	追分茶屋	市道追分茶屋12号線道路改良工事	45 道跡なし
*			
真羽富田町(201160)	北代字伊佐波	自己用住宅建築	238.25 道跡なし
真羽富田町(201160)	北代字伊佐波	自己用住宅建築	236.29 道跡なし
真羽富田町(201160)*	北代	自己用住宅建築	10 道跡なし
北代南田町(201174)	北代	道路改良工事	291.6 道跡なし
北代一万多(201175)	北代	市道北代47号線外1蔵改良工事	419.9 道跡なし
百塚(201189)	百塚	自己用住宅建築	356 繩文(続)土坑、弥生(後)溝／繩文(後)縄文土器、繩文(続)縄文土器、繩文(続)印石、弥生(後)弥生土器
百塚(201189)	百塚	自己用住宅建築	297.7 繩文(地)構、繩文(地)土坑、弥生(後)方形周溝壠／繩文(地)縄文土器、繩文片、弥生(後)弥生土器
豊田中吉原(201197)	豊田本町3丁目	立体駐車場新設工事	3,890.61 弥生(終)谷部、弥生(終)溝、弥生(終)土坑、弥生(終)ビット／繩文(地)縄文土器、弥生(終)弥生土器、古代須恵器
豊田中吉原(201197)	豊田本町2丁目	自己用住宅建築	515.88 江戸土坑、江戸匂／繩文(前)繩文土器、繩文(中)繩文土器、繩文(後)繩文土器、江戸陶器器、江戸キセル
豊田・豊田城(201199)*	豊田本町2丁目	看板設置工事	2.2 道跡なし
豊田・豊田城(201199)*	豊田本町2丁目	看板設置工事	2.2 道跡なし
中富居(201206)	上富居2丁目	宅地造成工事	3,614 中世土器器、江戸越中廻戸、不明土器器
中富居(201206)	中富居	共同住宅建設工事	337 道跡なし
新原中町Ⅱ(201215)	新原中町Ⅱ	立体駐車場新設工事	691.13 道跡なし
宮成(201216)	宮成	自己用住宅建築	448 中世土器器、中世越前、中世廻戸美濃
木造の廻(201219)	木造の廻	自己用住宅建築	476.51 道跡なし
新坂(201223)*	木造新築	市道水橋新橋9号線改良工事	600 不明青磁
木造金広・中馬場(201251)*	木造中馬場	市道水橋新橋中馬場跡改良工事	40 不明井戸／不明土器器
砂川カタダ(201284)	東老田	自己用住宅建築	300 江戸構、不明溝／江戸縄器
花ノ木A(201287)*	東老田	飛特763浜羽第3地理分区東老田地区管渠施設(その17)工事	398.3 道跡なし
花ノ木B(201288)*	東老田	飛特763浜羽第3地理分区東老田地区管渠施設(その17)工事	398.3 中世珠糸
花ノ木C(201291)*	東老田	飛特730寒江地理分区廻造寺地区管渠施設(その13)工事	504.7 繩文へ中世路路、古代窯、中世溝、不明土坑、不明溝／繩文土器、古墳古式土器器、古代土器器、古代須恵器、中世土器器、不明木製品、炭化物
西金屋・西金屋裏跡(201293)	古武	自己用住宅建築	246 奈良穴、奈良溝、奈良葛、奈良葛土器、奈良須恵器、奈良土器器
住吉南II(201320)*	住吉	市道住吉11号線道路改良工事	26 道跡なし

富山城跡(201397) *	本丸	城址公園整備	1,200 江戸土塁、江戸廣、江戸土垣、近代石造水路、近代レンガ水路／江戸かわらけ、江戸越中漁戸、江戸陶磁器、近代レンガ、近代瓦
富山城跡(201397) *	本丸	案内板取替え工事	0.56 道跡なし
富山城跡(201397) *	本丸	城址公園整備	1,500 江戸土塁、江戸築石造機、江戸ピット、明治レンガ組の唐、明治石碑／古代須恵器、中世珠渦、中世漁戸美濃、中世越中漁戸、中世八尾、中世青磁、中世かわらけ、江戸肥前、江戸漁戸美濃、江戸瓦質土器、江戸瓦、江戸壇管、明治陶磁器、明治火鉢、明治椎瓦
富山城跡(201397)	本丸	茶室新築工事	710 江戸造成面／中世かわらけ、江戸越中漁戸
富山城跡(201397) *	丸の内2丁目	ガス漏れ修繕工事	3.29 弥生土器、江戸～近代陶磁器
富山城跡(201397) *	本丸	城址公園整備	160 古代須恵器、中世珠渦、江戸かわらけ、江戸越中漁戸
中世富山城指定地(201398)	千石町4丁目	自己用住宅建築	176.8 江戸土師器、江戸越中漁戸、江戸唐津、江戸伊万里、江戸瓦、江戸窯器
中世富山城指定地(201398)	千石町4丁目	富山地方裁判所宿舎解体工事	1,277.48 江戸築、江戸瓦瓦／江戸越中漁戸、江戸伊万里、江戸唐津、江戸鐵器、江戸以前下駄
馬場大屋(201479) *	馬場	市道馬場29号線改良工事	84 舞文土器
馬場種田(201480)	馬場宇坂田新	共同住宅建築工事	828 道跡なし
馬場種田(201480)	馬場宇坂田新	駐車場施工工事	205 道跡なし
馬場種田(201480)	馬場宇坂田新	駐車場造成工事	915 道跡なし
馬場種田(201480)	馬場宇坂田新	会社施設所建設工事	1,798 平安土師器、平安須恵器
馬場種田(201480)	馬場宇坂田新	共同住宅建設工事	969 道跡なし
八日町(201481)	八日町	駐車場造成工事	90 道跡なし
福葉町鳥ノ木(201484) *	福川町	福葉町公園施設整備工事	1,000 不明唐、不明自然流域／弥生土器、古代須恵器
福葉町鳥ノ木(201484) *	福川町	車庫建設工事	27.68 道跡なし
山瀬東田(201487)	山瀬宇東田新	自己用住宅建築	200 古代土師器、中世珠渦鏡
山瀬東田(201487)	山瀬宇東田新	駐車場造成工事	326 道跡なし
本郷水上(201496)	本郷町水上	共同住宅建築工事	549.16 道跡なし
本郷水上(201496)	本郷町水上	共同住宅建築工事	841.02 古墳古式土師器、中世土師器
本郷水上(201496)	本郷町水上	共同住宅建築工事	353.92 道跡なし
任海宮田(201501) *	任海	市道任海1号線改良工事	387 道跡なし
二俣寺跡(201514)	二俣	パイプドレン敷設工事	15 道跡なし
二俣(201516) *	二俣	市道二俣7号線改良工事	271.5 道跡なし
下熊野(201520)	安養寺	自己用住宅建築	368 不明唐／中世土師器
下熊野(201520) *	安養寺	特需510熊野地区分区安養寺地区管理施設（その5）工事	338.9 道跡なし
下熊野(201520) *	安養寺	佐川川浚良工事	260 道跡なし
辰尾(201531) *	辰尾	市道月岡齊柳上今町線3号線改良工事	134 道跡なし
市街北(201532)	小杉	自己用住宅建築	336.93 道跡なし
市街北(201532)	布市	農業用金庫建設	54.76 道跡なし
市街北(201532)	布市	自己用住宅建築	94.22 道跡なし
闇(201535)	闇	農業用金庫建設工事	153 道跡なし
布市(201537)	石田	直屋壁工事	20.4 道跡なし
布市(201537)	月岡町6丁目	自己用住宅建築	69.56 道跡なし
上熊野(201566)	上熊野	自己用住宅建築	79 道跡なし
大井(201574) *	大井	市道月岡齊柳上今町線3号線改良工事	30 道跡なし
水橋入部(201579) *	水橋入部町	市道水橋入部町3号線道路改良工事	109 道跡なし
金蔭古風歌(201586) *	金蔭	市道金蔭21号線道路改良工事	130 道跡なし
金蔭向田(201587)	寺町宇向田新	店舗建設工事	884 道跡なし
援野新南田(201600)	援野新	墓地造成工事	49 道跡なし
援野新南田(201600)	援野新	墓地造成工事	30 道跡なし
援野新南田(201600)	援野新	墓地造成工事	23 道跡なし
援野新南田(201600)	援野新	墓地造成工事	22 道跡なし
援野新南田(201600)	援野新	墓地造成工事	20 道跡なし
羽根下立(201815)	羽根	病院増築工事	946.06 道跡なし
羽根下立(201815)	羽根	病院増築工事	2,725.36 道跡なし

高坂(301019)	名寄字小野削	集合住宅建設工事	766.46	遺跡なし
多日(301025)	下タ林	駐車場または緑地化に伴う造成工事	216	遺跡なし
新村(301071)	下大久保	体育加工場建設工事	904.8	古代土器類
万葉(301080) *	万葉寺牛伸道	後谷川改修工事	60	遺跡なし
龜谷振山跡(302055) *	龜谷字下平削	携帯電話基地局建設工事	9	遺跡なし
白原(361003) *	八尾町松原	東屋建設工事	36.1	遺跡なし
麻生神社(361061)	八尾町福島字	自己用住宅建築	342	不明土坑／陶文土器
尾尾日・小倉中橋(361066) *	八尾町草尾	車庫・物置建設工事	76.15	遺跡なし
朝尾日・小倉中橋(361066) *	八尾町草尾	車庫建設工事	73.85	古代土器類
苗本郷日(361068)	八尾町経本郷	自己用住宅建築	72.86	弥生土器
木谷(361080)	八尾町木谷	個人車庫建設工事	44.29	遺跡なし
上ノ山強跡(361095) *	八尾町諏訪町	公園遊具施設設置工事	40	遺跡なし
上ノ山城跡(361095) *	八尾町諏訪町	公共トイレ設置工事	52.7	遺跡なし
上ノ山城跡(361095) *	八尾町諏訪町	波公305福島第1処理分区八尾町諏訪町地区管渠築造(その1)工事	110	遺跡なし
安田城跡(362001)	緑中町安田	自己用住宅建築	481.54	遺跡なし
坂板(362002) *	緑中町下条	市道下条安田線道路改良工事	42	中世株洲
坂板(362002)	緑中町小原	自己用住宅建築	500	中世株洲、中世板碑、不明陶器
坂板(362002) *	緑中町小原	波公722宮ヶ瀬地区管渠築造(その3)工事	28	遺跡なし
坂板(362002)	緑中町友坂	自己用住宅建築	496.54	遺跡なし
坂天火神(362003)	緑中町友坂字	墓地造成工事	94	古代土器類
下邑東(362042)	緑中町羽根	自己用住宅建築	120.04	遺跡なし
下邑東(362042)	緑中町羽根	自己用住宅建築	499.98	遺跡なし
湯通(362119)	緑中町湯通	宅地造成工事	7,405.2	中世墳、中世土坑、不明墳、不明土坑／江戸陶磁器
湯尾I・南部I(362129) *	緑中町湯尾通	波公761下条第1処理分区緑中町湯野野地区管渠築造(その1)工事	497.1	弥生(終)～古墳(前)竪穴建物、弥生(終)～古墳(前)溝、弥生(終)～古墳(前)土坑、弥生(終)～古墳(前)ピット／弥生(終)弥生土器、古墳(前)古式土器類、古代須恵器
千里D(362142)	緑中町千里	自己用住宅建築	101.13	中世株洲
鹿谷(364014)	鹿谷字鹿	特別高圧送電線神通第一線統塔建設工事	144	遺跡なし
計件141(454)			63,506.84	
23年度 墓窓(平成24年3月)				
今市(201010) *	今市字東沼	自己用住宅建築	389.29	遺跡なし
草島(201016) *	草島	自己用住宅建築	57.69	遺跡なし
小西北(201211) *	小西北	自己用住宅建築	144.80	遺跡なし
高瀬大(201479) *	高瀬字大屋削	共同住宅兼事務所建設工事	1,084.19	平安土器類
高崎雁田(201480) *	高崎字寺田削	倉庫建設工事	559	遺跡なし
布市北(201532) *	布市新町	自己用住宅建築	237.49	遺跡なし
坂板(362002) *	緑中町下条	農作業用施設工事	123	中世墳／中世土器
高崎(362060) *	緑中町富岡字	自己用住宅建築	99.6	遺跡なし

II 遺跡地図管理

平成 18 年度から開始した市内の埋蔵文化財包蔵地分布調査は、7か年をかけ、24 年度で完了しました。調査の結果、埋蔵文化財包蔵地の総数は 1,047 か所、総面積は 73.23 km²となりました。これは市域 1,241.85 km² の約 5.90% にあたります。

調査の結果をまとめた全市版の遺跡地図を 3月末に発刊しました。平成 25 年 4 月 1 日以降この新しい遺跡地図を適用し、運用します。新しい遺跡地図は、国・県・市の史跡については地図中に史跡名称を明示して分かりやすくするなどしました。

遺跡地図は、埋蔵文化財センターをはじめ、市の開発部局、市立図書館、各教育行政センターで閲覧することができます。

(1) 地区ごとの遺跡数・面積

地区	遺跡数	他の地区にまたがる遺跡数	遺跡面積 (m ²)
富山	603	大沢野(2)、婦中(8)、大山(1)	29,807,339
大沢野	89	富山(2)、大山(1)、細入(1)	3,122,130
大山	84	富山(1)、大沢野(1)	29,771,605
八尾	93	婦中(7)、山田(2)	3,127,530
婦中	147	富山(8)、八尾(7)、山田(2)	5,211,860
山田	19	八尾(2)、婦中(2)	184,020
細入	36	大沢野(1)	2,009,050
計	1,047 遺跡		73,233,534

(2) 平成 24 年度の分布調査等による埋蔵文化財包蔵地の新規登録

No.	遺跡	地区	所在地	種別	面積 (m ²)	時代
1	鶯野城跡	富山	水橋的場、水橋金尾新	城館	6,750	中世
2	葛原山砦跡	大沢野	葛原	城館	19,250	中世
3	薄波砦跡	大沢野	薄波	城館	5,250	中世
4	吉野銀山遺跡	大沢野	吉野	鉱山	66,500	近世
5	東川倉 II 遺跡	八尾	八尾町東川倉	生産	4,500	不明
6	妙法ヶ洞窟	八尾	八尾町布谷	洞穴	200	中世?
7	小長沢宮ノ高横穴墓	婦中	婦中町小長沢宇宮ノ高	横穴	150	古墳
8	上瀬三田堀切跡	八尾・婦中	婦中町上瀬、八尾町三田	その他	100	中世
9	觀音屋敷跡	婦中・山田	山田宿坊、婦中町上野	祭祀	3,250	中世

※分布調査以外の新規登録遺跡や範囲・遺跡名等を変更した遺跡は新しい遺跡地図に反映しています。

＜今年度に行った分布調査の様子＞



吉野銀山遺跡の坑口



吉野銀山遺跡の製錬場跡



薄波岩跡の堀切跡



東川倉Ⅱ遺跡



妙法ケ洞窟



葛原山岩跡

III 史跡の保護・管理

1 北代縄文広場

(1) 管理

① 管理委託等

A 管理運営委託 地元の長岡地区自治振興会に広場の管理運営を委託しました。振興会が配置した管理人と北代縄文広場ボランティアの会の会員が常駐し、広場の管理や展示解説、体験学習などを行いました。

B 除草管理 広場の草刈、堅穴住居の燐し、樹木の雪吊りなどは公益社団法人富山市シルバー人材センターに委託しました。

② 観察

文化庁文化財部記念物課 市原富士夫文化財調査官（平成24年11月29～30日）

③ 社会に学ぶ 14歳の挑戦

吳羽中学校（5名） 平成24年9月24日～9月28日

広場管理運営・展示解説補助・土器づくり体験指導補助（ボランティア指導）

④ その他

北代地内環境騒音調査（市環境保全課） 平成25年1月31日～2月1日

(2) ミニ企画展

テーマ	期間	主要展示品	入場者数	展示解説会
1 堀中地域の縄文遺跡(2) 牛滑遺跡	平成24年2月16日 ～7月29日	縄文土器、大型磨製石斧、弥生土器ほか	3,393人	平成24年5月11日
2 富山地域の縄文遺跡(2) 百塚遺跡	平成24年7月31日 ～25年1月27日	縄文土器、動物形土製品、有孔球状土製品、土偶、凹石、石鍤、打製石斧、磨製石斧、石鏃、石匙、石刀、丸玉、管玉未成品ほか	3,917人	平成24年8月19日 11月2日
3 大山地域の縄文遺跡(3) 花切西遺跡	平成25年1月31日 ～3月31日	縄文土器、土偶、打製石斧、磨製石斧、凹石、擦石、石皿、筋砥石、剥片、石刀、大珠、原石、タカラ貝形土製品ほか	76人 (2月末現在)	平成25年2月6日

(3) 施設老朽化対策事業

広場のオープンから10年が経過し、復元建物（土屋根堅穴住居・茅葺高床倉庫）などが老朽化しました。そこで、国・県の指導の下、復元建物等の長寿命化を目的とした改修工事を平成22年度から6ヶ年計画で実施しています。

事業では、建築学・歴物科学・林産加工学・木材物理学・保存科学・考古学の専門家からなる史跡北代遺跡復元建物修理検討専門家会議を組織し、会議の検討結果を踏まえて修理工事を実施しています。土屋根堅穴住居の建築・維持管理（修理）の標準設計・仕様として発信することも目指しています。平成24年度は、次の①～④の修理等を行いました。

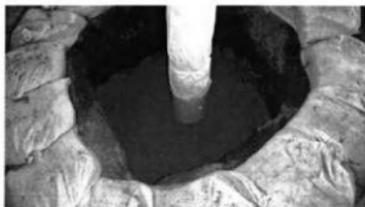


専門家会議

①復元建物修理工事



主柱取替箇所の防錆塗装



主柱取替（周囲を山砂で埋戻し）



屋根組みの劣化材取替



茅の葺き替え

A 復元建物 4（高床倉庫） 主柱や小舞、笄丸太など劣化部分の取替えや、平成 15 年度の取り替え後に劣化した、茅葺屋根の茅等を葺き替える修理工事を行いました。

B 復元建物 1・3・5（堅穴住居） 復元建物 1・3 では屋根土内に浸透した雨水が住居内に染み出することを防ぐため、屋根の末端付近から周囲の透水管までの地中に防湿シートを敷く改良をしました。

復元建物 5 では小屋根の煙出しから雨が吹込むのを防止するため、草壁を増設する改良を行いました。

②復元建物木材劣化診断 復元建物 3（堅穴住居）の木材劣化を早期に発見し今後の対策に活かすため、木材劣化診断士による一次診断（視診・触診・打診・刺突し診・含水率測定）を実施（平成 25 年 1 月 17 日）しました。

③史跡北代遺跡復元建物修理検討専門家会議

A 平成 24 年 8 月 31 日 平成 23 年 12 月に修理工事を終えた復元建物 5（堅穴住居）の評価、工事実施中の復元建物 4（高床倉庫）の施工方法の検討、今後予定している復元建物 6（堅穴住居）の修理方法の検討を行いました。



復元建物 5（小屋根） 草壁増設



復元建物木材劣化診断

専門家会議委員（敬称略）

氏名	分野	備考
宮野 秋彦	建築学	名古屋工業大学名誉教授
清水 正明	鉱物科学	富山大学理学部長・教授
藤井 義久	林産加工学	京都大学大学院農学研究科准教授
宮野 則彦	木材物理学	日本大学生物資源科学部准教授
佐野 千絵	文化財保存学	(独)国際文化財機構東京文化財研究所 保存修復科学センター保存科学研究室長
西井 龍儀	考古学	富山考古学会会長

B 平成 25 年 3 月 6 日 修理工事を終えた復元建物 4（高床倉庫）の評価と復元建物 6 の修理方法の検討を行いました。

④復元建物 5（竪穴住居）環境調査－飛来昆虫調査、室内温湿度計測、土間温湿度計測－

平成 23 年度に修理工事を終えた復元建物 5 の経過観察の一環として、平成 24 年 4 ～ 12 月まで毎月 1 週間程度、復元建物内に飛来する昆虫の捕獲調査を行いました。復元建物 5 の室内にハエ取りリボンを設置し、捕獲した昆虫は富山市科学博物館に同定を依頼しています。この他、専門家会議委員の宮野秋彦・宮野則彦氏により、室内温湿度と土間温湿度の定期観測（1 時間ごと）を継続しています。

(4) 長岡地区行事等

①長岡地区自治振興会

縄文朝市（平成 24 年 5 月～12 月の第 2 ・ 4

土曜日、全 13 回）

北代縄文サマーフェスタ（平成 24 年 8 月 19
日、市教委と共に催）

②長岡地区ふるさとづくり推進協議会

縄文冬まつり（平成 25 年 1 月 19 日）

③北代三区町内会

北代三区住民納涼大会（平成 24 年 7 月 21 日）

④北斗七星

宇宙意識覚醒フォーラム Part III －縄文意識を取り戻す－（平成 24 年 11 月 11 日）

(5) 入場者数

年度	個人	団体	合計	土器づくり体験
22	5,815 人	1,148 人	6,963 人	593 人
23	7,273 人	976 人	8,249 人	861 人
24 (25 年 2 月末現在)	6,252 人	884 人	7,136 人	445 人

(参考) 平成 11 年 4 月～25 年 2 月末の累計人数 125,977 人



復元建物 5 の環境調査

2 安田城跡歴史の広場

(1) 管理

① 管理

管理人 1 名が常駐し、資料館及び広場の管理や来場者への案内・解説を行いました。

清掃業務及び広場の環境整備（芝刈・樹木剪定・除草・睡蓮間引き）は、公益社団法人富山市シルバー人材センター及び財團法人富山市婦中公園緑地管理公社に委託して実施しました。

② 観察

富山市議会自由民主党経済教育部会（平成 24 年 11 月 1 日 5 名）

(2) 展示

① ミニ企画展

テーマ	期間	主要展示品	入場者数(人)	展示解説会
1 富山市の中世墓(1) 堀 1 遺跡	平成24年2月16 日～7月1日	八尾焼、珠洲焼、越前焼、中世土師 器ほか	5,818	平成24年2月 16日
2 古絵図に描かれた ふるさとの遺跡	平成24年9月11 日～平成25年2 月17日	中世土師器、珠洲焼、石製鉢、瀬 戸、青磁、羽口、備蓄罐、弥生土 器、六代古塚墳墓ジオラマほか	1,856	平成24年9月 11日
3 富山市の中世集落 (5)金屋南遺跡	平成25年2月19 日～6月23日	鎧型、漆器、馬鹿、提子、鏡、太刀 部品、中世土師器、瓦器、鉄鍋、溶 解炉、下駄ほか	99 (2月末現在)	平成25年2月 19日

② 発掘速報展 2011 巡回展

テーマ	期間	主要展示品	入場者数(人)	展示解説会
1 古代の有力者たち —古墳・役所—	平成24年7月3日 ～9月9日	須恵器、ガラス玉、刀子(二本桜遺 跡)、墨書き土器(米田大覚遺跡)、馬 具、轡、鐵纏(古坂遺跡)ほか	4,176	平成24年7月 3日

(3) 自主事業

① 「お城をもっと楽しもう！～ペーパークラフト

作製体験（富山城櫓御門）～ 平成 24 年 8 月 10
日 25 名

② 「お城をもっと楽しもう！～安田城の縄張り図

作製体験～ 平成 24 年 10 月 13 日 8 名

④ 地元行事

「第 20 回安田城月見の宴」（安田城月見の宴実行委員会主催）平成 24 年 8 月 25 日

⑤ 入場者数

年度	個人	団体	合計	(人)
22	9,922	3,418	10,562	
23	10,951	3,388	11,875	
24 (25 年 2 月 末現在)	8,088	3,439	11,527	

(参考) 平成 5～25 年度 2 月末の累計人数 141,924 人



古絵図に描かれたふるさとの遺跡展

3 史跡王塚・千坊山遺跡群

(1) 公有化事業

弥生時代後期から古墳時代前期の集落跡と墳墓の計7ヶ所で構成される史跡王塚・千坊山遺跡群（王塚古墳・勅使塚古墳・千坊山遺跡・六治古塚墳墓・向野塚墳墓・富崎墳墓群・富崎千里古墳群）では、平成23年度から公有化事業に着手しています。

平成24年度は、千坊山遺跡と勅使塚古墳の一部 30,941.18 m²の公有化を行いました。これまでの公有化面積の累計は 33,424.47 m² (56%) です。

【公有化進捗状況】

年度	遺跡名	公有化面積 (m ²)	筆数	地権者数 (人)
23	千坊山遺跡	1,067.00	12	7
	六治古塚墳墓	1,416.29	6	
	小計	2,483.29	18	
24	千坊山遺跡	22,904.18	96	23
	勅使塚古墳	8,037.00	7	
	小計	30,941.18	103	
	合計	33,424.47	121	30

【全体計画】

遺跡名	公有化面積 (m ²)	筆数	地権者数 (人)
千坊山遺跡・勅使塚古墳・六治古塚墳墓・向野塚墳墓・富崎墳墓群・富崎千里古墳群	59,943.66	246	90

(2) 維持・管理

①除草管理

千坊山遺跡・六治古塚墳墓（公有地部分

2,371.29 m²） 草刈1回

千坊山遺跡内古里小学校旧運動場 (6,299 m²)

古里小学校 P T A による草刈1回

②暴風被害対策

【発生状況】

発生日 平成24年4月5日

六治古塚墳墓 倒木30本以上により墳丘東

側14箇所がき損

富崎墳墓群3号墓 倒木12本以上

勅使塚古墳 倒木1本

【対応】

六治古塚墳墓 倒木の伐採・搬出・処理（平成24年7月17日～20日）

富崎墳墓群3号墓 富山県畜産研究所による倒木の処理

勅使塚古墳 富山市婦中町総合行政センター農林商工課による倒木の処理



六治古塚墳墓の暴風被害状況

4 史跡直坂遺跡

平成 24 年 10 月 文化財案内板の取替設置（生涯学習課実施）立会



5 県・市指定史跡管理等

(1) 国・県指定

①文化財パトロール

富山県が委嘱した文化財保護指導委員（富山市域 5 人）による定期的な国・県指定文化財、埋蔵文化財等の状況調査

直坂遺跡案内板

●24 年度の主な文化財パトロール報告

月	名称	保護の意見等
6 月	（県）東黒牧上野遺跡	なし
8 月	（国）安田城跡	なし
9 月	（国）王塙・千坊山遺跡群 （千坊山遺跡ほか）	なし

②県史跡金草第一古窯跡巡回 暴風被害確認（4 月 4 日）

(2) 市指定

①パトロール 堀 I 遺跡巡回 暴風被害確認（4 月 5 日）

②除草 堀 I 遺跡（5・7・8 月）。境野新遺跡・押上遺跡、栗山塚・古沢塚山古墳（5 月）

③文化財案内板設置（生涯学習課実施） 平成 24 年 10 月 城生城跡・主馬ヶ城跡・大道城跡の解説文作成

④その他 指定史跡の見直し案を検討中

IV 展示・普及

1 発掘速報展

(1) 発掘速報展 2011「古代の有力者たち—古墳・役所—」巡回展

①安田城跡資料館

会期 平成 24 年 7 月 3 日～9 月 9 日（60 日間）

入場者数 4,176 名

展示遺跡 二本榎遺跡、米田大覚遺跡、百塚住吉 D 遺跡、百塚遺跡、西金屋・西金屋窯跡、館本郷 II 遺跡

主要展示品 須恵器、ガラス玉、刀子（二本榎遺跡）、墨書き土器（米田大覚遺跡）、馬具、轡、鉄鎌（百塚遺跡）ほか

(2) 発掘速報展 2012「いにしえ人の暮らしと交流」

場所 富山市役所多目的コーナー

会期 平成 25 年 3 月 11 日～3 月 15 日

展示遺跡 今市遺跡、豊田中吉原遺跡、翠尾 I ・ 南部 I 遺跡

主要展示品 弥生土器・古式土器・須恵器、土師器、墨書き土器（今市遺跡）、ほか

展示見学 3 月 11 日に、今市遺跡の体験発掘を行った八幡小学校 6 年生が展示を見学し、自分が関わった遺跡出土品を見て感動しました。よい卒業記念となったようです。

入場者数 724 名

2 兼務関係施設企画展等

(1) 大山歴史民俗資料館企画展（大山教育行政センター所管：学芸員兼務）

テーマ	期間	主要展示品	入場者数
おおやま 中世の暮らしと文化を探る	平成24年9月19日～12月2日（75日間）	珠洲、中国錢貨、五輪塔、板碑	609人

(2) 考古資料館（民俗民芸村所管：学芸員兼務）

テーマ	期間	主要展示品	入場者数
古代の有力者たち —古墳・役所—	平成24年4月27日～6月3日（38日間）	須恵器、ガラス玉、刀子（二本榎遺跡）、墨書き土器（米田大覚遺跡）、馬具（轡）、鉄鐵（百塚遺跡）	876人

3 遺跡発掘調査現地説明会

(1) 今市遺跡

平成 24 年 8 月 10 日(金)

午前：八幡小学校 参加者数 110 名

午後：一般市民 参加者数 70 名

八幡小学校の全校登校日にあわせて、遺跡の見学会を実施しました。これより前の 7 月 19 日には 6 年生全員による体験発掘も行い、子供たちからの感想文も寄せられました（p35 参照）。



現地説明会のようす

4 富山城ツアー

平成 21 年度から開始した富山城石垣ツアーは、平成 23 年度から「富山城ツアー」と名称変更し、郷土博物館と提携して、より分かりやすい内容にしました。

富山城ツアー 2 年目の今年は、最新の発掘調査成果や新しい地点の解説を加えながら参加者の皆さんと城内をめぐりました。「富山城はよく来るが、知らないことがたくさんあった」とたいへん好評でした。

担当：郷土博物館坂森幹浩専門学芸員、

埋蔵文化財センター近藤顕子主査学

芸員・堀内大介主査学芸員・野垣好史主任学芸員



富山城ツアーのようす

●24年度富山城ツアーの実績

回数	月日	主な説明場所	参加人数
1	6月6日	本丸御殿、鉄門石垣、大手門・二階櫓門石垣石材	70 人
2	8月22日	鉄門石垣、西ノ丸後通り、西ノ丸北西の堀発掘調査地点	50 人
3	10月3日	鉄門石垣、本丸南辺の土壘、二ノ丸・三ノ丸	120 人
4	11月7日	鉄門石垣、二ノ丸、東出丸・千歳御門、搦手石垣	40 人
計			280 人

5 講座

(1) 富山市民大学（市民学習センター主催）

① 吳羽丘陵の考古学

回	講師	学習題	開催月日
1	古川知明所長	吳羽丘陵の自然と文化	5月 8日
2	堀内大介主査学芸員	貝塚が語ること一小竹貝塚一	5月 22日
3	小黒智久主査学芸員	縄文時代中期の吳羽の拠点集落 —史跡北代遺跡—	6月 5日
4	大野英子主査学芸員	吳羽丘陵山頂の高地性集落	6月 19日
5	鹿島昌也主査学芸員	吳羽丘陵北端の古墳群	7月 3日
6	野垣好史主任学芸員	吳羽丘陵の中期・後期古墳	9月 4日
7	近藤頤子主査学芸員	吳羽丘陵・井田川沿いの中世鉄物生産	9月 18日
8	小松博幸主査学芸員	白鳥城と安田城	10月 2日
9	野垣好史主任学芸員・古川知明所長	現地学習 長岡御廟所	11月 6日
10	古川知明所長	北陸街道と吳羽丘陵	11月 20日

② 富山市民大学プラネット（婦中ふれあい館）

ふるさとに学ぶ

4	大野英子主査学芸員	婦負の遺跡探訪（王塚・千坊山遺跡群）	7月 4日
---	-----------	--------------------	-------

③ 富山市民大学プラネット（大沢野生生涯学習センター）

郷土史

2	古川知明所長	小佐波御前山の地域信仰	6月 1日
3	小林高範主査学芸員	狛犬の制作と流布	6月 15日
6	古川知明所長	神通峠の石工	9月 7日

④ 富山市民大学プラネット（大山地域市民センター、大山歴史民俗資料館）

うまい水のルーツを探る～立山カルデラと水利用～

2	小林高範主査学芸員	暴れ川常願寺川(2)ー治水の歴史ー	5月 17日
6	小林高範主査学芸員	有峰の歴史	8月 30日

(2) 市役所出前講座

遺跡からみた富山の歴史

回	講師	演題	主催者・会場	参加者数	月日
1	野垣好史主任学芸員	富山城の最新の発掘成果	富山ロータリークラブ 富山電気ビル	50	5月 15日
2	小林高範主査学芸員	金屋地区周辺の遺跡	金屋田祭実行委員会	56	5月 27日
3	古川知明所長	太田地区の成願寺川石工について	太田校下社会福祉協議会 太田公民館	50	6月 21日
4	小松博幸主査学芸員	八尾地域の遺跡について	誠鬼長寿会 誠鬼会館	17	7月 18日
5	近藤頤子主査学芸員	富山市の遺跡物語 近年の発掘調査から	富山市民病院	20	7月 20日
6	細辻嘉門主	婦中・古里地区周辺に	古里老人クラブ 古里	40	7月 20日

	査学芸員	について	公民館		
7	堀内大介主 査学芸員	最新の発掘調査成果	ベルメゾン管理組合 堀川町ベルメゾン	15	7月 26日
8	野垣好史主 任学芸員	富山城ツアー	富山市統計調査員会 城址公園	30	9月 28日
9	大野英子主 査学芸員	婦負地域の古墳につい て	富山市立神保公民館	50	10月 19日
10	野垣好史主 任学芸員	富山城ツアー	富山市立古里小学校 6 年生 城址公園	39	10月 30日

(3) その他講座

古川知明 富山大学教養講座とやま学—近世富山の史料— 講義「富山城下町と高岡城下町」 平成 24 年 6 月 4 日 富山大学人間発達科学部 11 人
細辻憲門 平成 24 年度 県民考古学講座 第 3 回 講演「富山市婦中町二本榎遺跡の円墳について」 平成 24 年 9 月 16 日 富山県埋蔵文化財センター 50 人

6 その他

(1) 社会に学ぶ 14 歳の挑戦

奥田中学校 (4名) 平成 24 年 6 月 18 日～6 月 22 日
[業務] 図書整理・出土品整理・北代縄文広場管理運営・安田城跡歴史の広場管理運営

(2) 「悠久の森 2012 森をつかもう」出展 (悠久の森実行委員会)

安達志津 (富山市埋蔵文化財センターOG) 「縄文クッキー作り」富山市ファミリーパーク 平成 24 年 9 月 2 日

(3) 市民バス教室

平成 24 年 7 月 11 日 安田城跡歴史の広場 (奥田北地区)
平成 24 年 7 月 27 日 安田城跡歴史の広場 (五福地区)
平成 24 年 8 月 3 日 北代縄文広場 (熊野地区)

(4) マスコミ

- ① 富山シティエフエム・発見！とやま 「富山城」(3回) 5月 21 日～23 日 古川・鹿島
- ② 富山シティエフエム・なるほど富山 「安田城跡」(3回) 7月 23 日～25 日 大野
- ③ 富山シティエフエム・越中むかしものがたり 「富山城ツアー」10月 17 日～10月 24 日 近藤・野垣

V 刊行物

1 発掘調査報告書

- No.53 富山市四方背戸割遺跡発掘調査報告書(2013,3)
- No.54 富山市今市遺跡発掘調査報告書(2013,3)
- No.55 富山市内遺跡発掘調査概要Ⅷ(2013,3)
- No.56 富山市内石造物等調査報告書Ⅱ(2013,3)
- No.57 富山市内遺跡発掘調査概要IX(2013,3)

2 PR 誌・展示図録等

- 富山市の遺跡物語 No.14 富山市教育委員会埋蔵文化財センター所報 (2013,3)
- 北代縄文通信 第 35 号 (2012,12)
- 北代縄文通信 第 36 号 (2013,3)

VI 活用

1 出土品貸出

貸出先	展示名	期間	資料名
1 富山市郷土博物館	常設展「各地の中世城館出土品」展	24.4.1~24.9.9	小出城跡出土漆器 6 点
2 富山市郷土博物館	企画展「史料が語る天下人秀吉・富山市所蔵品を中心に」展	24.11.7~25.2.4	白鳥城跡（かわらけ 2 点、越前焼 1 点、青磁 1 点、他 12 点）、富山城本丸戸跡出土品
3 射水市新湊博物館	企画展「縄文の玉—ヒスイの魅力—」展	24.6.29~24.9.2	小竹貝塚（飾玉 3 点）、北押川 B 遺跡（玉斧形垂飾 1 点）
4 富山県高志の国文学館	開館記念展「大伴家持と越中万葉—風土とこだまする家持の心—」	24.7.6~10.14	総曲輪遺跡（墨書き土器 1 点）、米田大覚遺跡（石帶 1 点）、任海官田遺跡（石帶 1 点）
5 富山市郷土博物館	常設展「リアルタイム富山城」	24.9.15~25.3.31	富山城跡（箸状木製品 2 点、漆椀 1 点、他 7 点）
6 富山県埋蔵文化財センター	特別展「寧楽と越」	24.9.26~12.11	米田大覚遺跡（墨書き土器 7 点、石帶 2 点、他 7 点）、水橋荒町・辻ヶ堂遺跡（墨書き土器 2 点、須恵器 8 点、他 8 点）、柳谷南遺跡（瓦 4 点、土馬 1 点、他 7 点）
7 富山市喜多人記念美術館	企画展「富山の天神はん」	24.10.24~25.2.5	富山城跡（天神信仰板繪 1 点）
8 富山市佐藤記念美術館	企画展「交易の時代 海を渡った陶器—越中に来た中国陶磁をまじえて—」	25.2.9~3.31	水橋金広・中馬場遺跡（中国陶磁破片 25 点）、小出城跡（中国陶磁破片 7 点）、小倉中船遺跡（中国陶磁破片 21 点）、金屋南遺跡（中国陶磁破片 19 点）

2 資料調査等

- (1) 4月4日 福岡県立大学准教授 岡本雅亨氏 史跡王塚・千坊山遺跡群現地調査（対応者 細辻主査学芸員）
- (2) 6月14日 埼玉県立さきたま史跡の博物館 栗島義明氏 開ヶ丘狐谷Ⅲ遺跡出土琥珀の調査（対応者 近藤主査学芸員、古川所長）
- (3) 6月21日、7月13日 中沢道彦 吉岡遺跡・小竹貝塚土器圧痕の調査（対応者 鹿島主査学芸員）
- (4) 8月26日 国学院大学大学院日本古代史ゼミ（佐藤長門教授、山崎雅穂助教授 他 11 名）埋蔵文化財センター収蔵資料・考古資料館展示見学案内（対応者 近藤主査学芸員）
- (5) 8月24日 武藏大学古代史研究室（富樫雅彦教授） 考古資料館展示見学案内（対応者 野垣主任学芸員）
- (6) 10月3日 文部科学省文化庁長官官房政策課企画係 畠家健一氏 富山市教育委員会実務研修
- (7) 2月26日 文化庁記念物課主任文化財調査官 佐藤正知氏、大阪府立弥生文化博物館長 黒崎直氏、富山県埋蔵文化財センター所長代理 久々忠義氏 薬師岳山岳遺跡調査成果の調査（対応者 野垣主任学芸員、古川所長）
- (8) 3月14日 独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所保存修復科学センター修復材料研究室長 朽津信明氏 他 2 名 富山城石垣・富山藩主墓所長岡御廟所墓石の帯磁率調査（対応者 野垣主任学芸員、古川所長）

VII 調査研究

1 調査

- (1)八尾町宝幢寺関係石造物調査 2012.4~9 (古川)
- (2)八尾町福島石仏調査 2012.4 (古川)
- (3)各願寺住職墓調査 2012.5 (古川)
- (4)富山寺宝鏡印塔調査 2012.6 (古川・坂口)
- (5)大岩山日石寺宝鏡印塔調査 2012.1~6 (古川)
- (6)市内中・近世石造物調査 2012.7~10 (古川)
- (7)西光寺燈籠調査 2012.7 (古川)
- (8)月岡6丁目石仏調査(2)2012.8
- (9)東葉寺蔵木造弘法大師像調査 2012.10~2013.3 (古川)
- (10)万願寺不動石仏の調査 2012.10~12 (古川)
- (11)龍高寺藏佐伯氏寺位牌の調査 2012.10~12 (古川)
- (12)泉町金刀比羅神社燈籠調査 2012.11~2013.3 (古川)

2 論文・報告・紹介

富山市内の遺跡に関するものを含みます。

- 小黒智久 2012.9 「各地の古墳IX 北陸」『古墳時代研究の現状と課題 上 古墳研究と地域史研究』同成社
- 小黒智久 2013.3 「造構・造物をとおしてみた若狭・越 横穴式石室」『若狭・越（北陸）の古墳時代』別冊季刊考古学第19号 雄山閣
- 鹿島昌也 2012.8 「富山城・城下町を掘る—近世から近代への変遷—」『北陸都市史学会誌』第18号 北陸都市史学会
- 鹿島昌也・三上智丈 2013.3 「富山県の災害遺跡」『富山史壇』第169・170号合併号 越中史壇会
- 納屋内高史 2013.3 「小竹貝塚出土の魚類遺存体（予報）」『富山市考古資料館紀要』第32号 富山市考古資料館
- 野垣好史 2013.3 「亀谷銀山分布調査報告—富山市域における鉱山遺跡の調査報告(1)」『富山市考古資料館紀要』第32号 富山市考古資料館
- 野垣好史 2013.3 「装飾付大刀」『若狭・越（北陸）の古墳時代』別冊季刊考古学第19号 雄山閣
- 野垣好史 2013.3 「薬師岳山頂における信仰—主に考古資料の検討から—」『富山史壇』第169・170号合併号 越中史壇会
- 藤田富士夫 2012.2 「大伴家持が見た鏡石川の景」『敬和学園大学研究紀要』第21号 敬和学園大学人文学部
- 藤田富士夫 2012.3 「東アジアにおける块飾組成について」『尖石繩文考古館開館10周年記念論文集』尖石繩文考古館
- 藤田富士夫 2012.3 「日本海文化の中の古代越中」『高岡市萬葉歴史館叢書24 万葉集と環日本海』高岡市萬葉歴史館
- 藤田富士夫 2012.5 「万葉集「敬和立山賦」の「そがひ」に関する実景論的考察」『敬和学園大学人文社会科学研究所年報No.10』
- 藤田富士夫 2012.12 「現代考古学事情20 指定管理者制度」『月刊考古学ジャーナル』636
- 古川知明 2012.6 「富山県地方史研究の動向 考古学関係」『信濃』第64巻第6号 信濃史学会
- 古川知明 2012.7 「常願寺川石工中嶋栄蔵について」『富山史壇』第168号 越中史壇会

- 古川知明 2012.7 論文展望「神通川石工とその周辺—近世石工と在地石材一」『季刊考古学』第 120 号 雄山閣
- 古川知明 2012.7 「竪穴建物の床の呼称について」『連絡紙』227 富山考古学会
- 古川知明 2012.8 「近世後期船橋向い諸町と神通川」『北陸都市史学会誌』第 18 号 北陸都市史学会
- 古川知明 2012.11 「富山県東部における近世石造物研究一主に石工研究から一」『北陸の石造物—研究の現状と課題一』石造物研究会
- 古川知明 2013.3 「富山城跡・城下町遺跡における災害痕跡」『富山史壇』第 169・170 号合併号 越中史壇会
- 古川知明 2013.3 最新城郭研究 富山県「富山城跡の調査」『月刊考古学ジャーナル』639 号 ニューサイエンス社
- 細辻嘉門 2012.12 「二本榎遺跡一横穴式石室をもつ円墳一」『埋文とやま』vol. 121
- 堀沢祐一 2013.3 「古代越中国の人面墨書き土器について」『高岡市万葉歴史館紀要』第 23 号
- 三辻利一・辻上裕貴・富山県埋文セ・富山市教委 2012.6 「越中の國の須恵器生産」(ポスター発表)『日本文化財科学会第 29 回大会研究発表要旨集』
- 宮野秋彦・古川知明 2012.6 「縄文時代後元堅穴住居の保存環境に関する研究(第 3 報)(富山市北代遺跡 その 3)」『日本文化財科学会第 29 回大会研究発表要旨集』
- 宮野秋彦・宮野則彦・古川知明・長島晴治 2012.6 「越中八尾の本法寺における所蔵文化財の保存環境の改修 第 1 報」『日本文化財科学会第 29 回大会研究発表要旨集』

3 講演・研究発表

富山市内の遺跡に関連するものを含みます。

- 小黒智久 「越佐・北陸の後期古墳」文化財保存新潟県協議会第 14 回弥生・古墳講座 平成 25 年 3 月 9 日 新潟市歴史博物館
- 小黒智久 「浦田山古墳群の調査成果とその特色」新潟市歴史博物館館長講座「磐舟櫛前史を飾る磐舟浦田山古墳群」第 1 回 平成 25 年 3 月 10 日 新潟市歴史博物館
- 鹿島昌也 「百塚古墳群の調査研究」日本考古学協会第 78 回総会研究発表会 平成 24 年 5 月 27 日 立正大学
- 中村晋也 (金沢学院大学准教授)「科学で探る百塚遺跡のガラス」平成 24 年度金沢学院大学文学部歴史文化学科公開講座 平成 24 年 10 月 6 日 富山県民会館
- 野垣好史 「薬師岳山頂における信仰—主に考古資料の検討から一」越中史壇会研究発表大会 8 月 18 日 富山県教育文化会館
- 藤田富士夫 「縄文時代の快飾装身について」富山考古学会例会 平成 24 年 6 月 23 日 富山県埋蔵文化財センター
- 藤田富士夫 「大伴家持が見た立山の景」越中史壇会特別研究発表会 平成 24 年 7 月 7 日 富山市民プラザ
- 藤田富士夫 「縄文研究の最先端—縄文時代の玉とヒスイ」長岡市まちなか大学 平成 24 年 7 月 21 日 まちなかキャンバス長岡
- 藤田富士夫 「縄文時代の装身具と翡翠」第 3 回日本海学講座 平成 24 年 10 月 6 日 富山県民会館
- 藤田富士夫 「古代婦負国誕生の物語」富山市長寿ふれあいセンター『ふるさと探訪同好会』講演会 平成 25 年 2 月 14 日 富山市総合社会福祉センター
- 古川知明・宮野秋彦 「縄文時代後元堅穴住居の保存環境に関する研究(第 3 報)(富山市北代遺跡 その 3)」日本文化財科学会第 29 回大会 平成 24 年 6 月 24 日 京都大学
- 堀沢祐一 「古代越中国のまじない」平成 24 年度高岡市万葉歴史館学習講座「古代への招待」平成 24 年 12 月 23 日 高岡市万葉歴史館

VIII 研修等参加

- 平成 24 年度全史協北信越地区協議会研修会参加 大野英子主査学芸員 福井県鯖江市
平成 24 年 7 月 12 日～7 月 13 日
- 第 19 回全国山城サミット魚津大会参加 鹿島昌也主査学芸員 魚津市新川文化ホール
平成 24 年 10 月 13 日～10 月 14 日
- 平成 24 年度第 2 回埋蔵文化財担当職員等講習会参加 鹿島昌也主査学芸員 東京都江戸
東京博物館 平成 25 年 2 月 5 日～2 月 6 日
- 平成 24 年度埋蔵文化財発掘調査専門職員等研修会参加 近藤頤子主査学芸員・鹿島昌也
主査学芸員・小黒智久主査学芸員・東 涼子嘱託学芸員・納屋内高史嘱託学芸員 富山県
埋蔵文化財センター 平成 25 年 2 月 15 日

IX 寄贈

- 黒崎 直氏（前富山大学教授） 考古学関係図書 3,727 冊（平成 23 年 4 月 22 日受入）
- 大橋千榮子氏 北代遺跡用地 502 m²（平成 24 年 10 月 30 日受入）
- 谷井紀氏 千坊山遺跡用地 62 m²・樹木（平成 24 年 10 月 25 日受入）

X 組織・事業費

1 組織

所長	1	主事	1
	-	主査学芸員	8 (兼務 大山歴史民俗資料館 1)
	-	主任学芸員	1 (兼務 考古資料館)
	-	嘱託学芸員	5
	-	嘱託	1 (安田城跡資料館)

2 事業費

総経費	197,352 千円
①埋蔵文化財調査事業費	35,194 千円
(内訳) 埋蔵文化財調査費	19,320 千円
普及事業費	161 千円
施設管理事務費	15,713 千円
②文化財保護事業費	83,771 千円
(内訳) 文化財保護事業費	13,394 千円
施設老朽化対策費	6,364 千円
史跡公有化事業費	64,013 千円
③一般管理事務費	78,387 千円

八幡小学校6年生の今市遺跡発掘体験記

1はじめに

八幡小学校体育館改築に伴う発掘調査中の7月19日(木)、同校の6年生21名(担任:成瀬由和教諭)が遺跡の発掘体験をしました。発掘作業員さんとコンビを組み、暑さにもかかわらず、熱心に作業を行いました。柱穴や構の上面を2~3cm掘り下げる作業を行ったところ、思った以上に土器片が見つかり、子供たちは大変喜んでいました。担任の先生によると「この体験が子供たちの歴史好きに拍車をかけたようです。」とのこと、その日のうちに記された感想文をここで紹介させていただきます。(紙幅の関係で文章の一部を抜粋しました。)

26年生発掘体験記

Y. W

わたしは、遺跡は出てこなくて、土だけを掘る作業をするのかなと思っていた。でも、実際はいろいろな場所でたくさんの土器のかけらなどが見つかったのでびっくりしました。新しい体育館で卒業式ができるのは悲しいけれど、発掘体験ができたのでとっても心に残りました。

N. A

今日体育館の下から見つかった今市遺跡の発掘体験をしました。最初は出なかったのにどんどん出てきました。そして9個も見つかりました。そのうち7個はわたしが見つけたものです。感動しました。

A. M

6年生になって歴史を習い、今もいろいろなことを勉強をしています。最初はよく分からず掘りすぎてしまった所がありました。でも優しくていねいに教えてくださった発掘作業員さんのおかげでよく分かったし、土器が出てきてすごくびっくりしました。

S. H

発掘は専用のシャベルで行いました。少しずつ掘るのは難しい作業です。土器が見つかるととてもうれしかったです。今日はとても暑くて汗がたくさん出きました。でも発掘調査はとても楽しかったです。夏の思い出ができました。

K. A

今日は、発掘をしました。思ったよりも力がいり、大変でした。あと1時間あればいいのにとも思いました。でも、毎日やっていたら大変で、いやになるかもしれないなと思いました。土器みたいなのが出てきてよかったです。やっぱりまたやりたいです。

E. H

今日発掘体験をしました。土器の破片が4つ見つかったのでうれしかったです。掘っていくうちに土器がどんどん出てきて、掘っていくのが楽しかったです。

Y. H

わたしは、とってもハンサムな発掘作業員さんと組になりました。いろいろな話をしてくださいました。「吳羽に亡くなった方の骨があり、ふつうは何千年もたつなくなるのにそこは

貝づかの貝がたくさん積み重ねてあったので残ったんだよ。」と言っておられたのが印象的でした。

H. M

今日は待ちに待った遺跡発掘体験をしました。ぼくはみんな土器が見つかっている中、炭と色のついた石くらいでした。土器が出なくてちょっと残念でした。でも炭を持って帰れたのですごくうれしかったです。

W. M

いつも発掘作業員の方々の様子をろう下の窓から見ていましたが、外は暑くて大変そうでした。実際体験して、とても大変でした。これからも暑いと思うけどがんばってほしいです。今日、教えてくださった方々にとても感謝しています。

N. H

今日は、発掘作業員のみなさんと、発掘体験をしました。最初は、土器をこわさないかときどきしながら掘りました。何かオレンジ色の物やい色の石のような物が出てきました。それは土器のかけらだったのでなんだかうれしかったです。

A. H

今日9時～10時の1時間発掘体験をしました。土器が見つかってからすごく楽しくなってきて、小さくても土器の復元に役に立ってくれればいいなと思いました。発掘作業員のみなさんありがとうございました。また発掘をしたいと思いました。

R. K

最初掘りだした場所は、土器は出ませんでした。2番目の場所では、いきなり赤いものが出てきてそれは土器だったのでおどろきました。すぐまたかけらが出てきました。かけらが復元され一つの土器になってほしいです。

M. K

今日は、発掘調査を体験しました。ぼくと発掘作業員の方といっしょに掘りましたが、なかなか出ませんでした。でも意外と楽しかったです。みなさん本当にありがとうございます。



発掘体験の様子



感想文のイラストから

N. K 初めはスコップか何かで掘るのかと思っていたらシャベルのようなものでけずると言われてびっくりしました。一か所目はだめだったので二か所目に期待したら大きな土器のかけらが1個できました。1個しかそれなかったけど、大きかったのでうれしかったです。

R. K

最初に校区内で発掘された土器などを見ました。こんなにきれいな形で残っているものもあるんだなあと思いました。次に掘り方を教えてもらってから発掘作業員の方と掘り始めました。土器のかけらを2つ発掘できたのでうれしかったです。

M. I

教えてくださった方はあさのさんでした。あさのさんは土が固くて掘れない時、土をやわらかくしてくださいました。そのおかげで掘りやすくなったり、遺跡のかけらなどが見つかってとてもうれしかったです。

T. N

せきたさんという方と一緒に掘りました。線をはみだしたときに、「サッカーのときみたいに、はみだしたらレッドカードと同じだよ。」と言われました。ぼくにいろいろなことを教えてくださいました。本当にありがとうございました。

S. H

今日は待ちに待った発掘調査でした。今回何と6つも土器のかけらを掘ることができたので、とてもうれしかったです。発掘作業員の方は、「土器のかけらを組み合わせるのが楽しかった。」と言っておられたので、私もいつかやってみたいなと思いました。

A. N

今日、貴重な遺跡発掘の体験をしました。最初は「不器用な私にもできるかな。」と心配していました。一緒に掘ってくださった発掘作業員の方が、終わった後に「これからも上から見てね~。」と言われてうれしかったです。

S. M

今日、生まれて初めて「遺跡発掘」をしました。みんなはどんどん土器の破片を出していながら、私は全然見つけることができなくて発掘の難しさを改めて知りました。また、発掘をしたいです。今度こそ土器の破片を出したいです。今日はとても楽しかったです。

R. K

他の人が土器のかけらを見つけていたので、あせりました。場所を変えても全然出ませんでした。もうそろそろ終わるころに奇跡がきました。パートナーだった方が土器のかけらを見つけました。その時はとてもうれしかったです。

3 おわりに

他校や他の学年では経験できない発掘調査を体験した時の思いを忘れずに、大きくなってしまっても、故郷にある遺跡を誇りに思い、郷土の歴史や文化財について関心を持ってもらえば幸いです。この子供達の中から将来の考古学者が誕生することを期待しています。(鹿島昌也)

研究余話 I 富山市二本榎遺跡 SZ01 の横穴式石室について

小 黒 智 久

(埋蔵文化財センター主査学芸員)

はじめに

SZ01 は直径約 11m の円墳である。墳丘盛土は完全に削平され、盛土下の旧表土も地山付近がわずかに残るのみで、遺存状態は良くない。部分的な調査に留まるが、富山県内では類例の少ない横穴式石室墳のため、数度の現地観察所見と調査報告書（富山市教委 2012）等に基づき、私見をまとめる。見解が異なる部分もあるので、報告書も併読いただきたい。

1 墳丘・周溝

古墳は井田川左岸の扇状地に囲まれた中位段丘に位置し、頂部から扇状地側（東南東）方向に向かう緩斜面奥部（標高約 60m）に立地する。横穴式石室を南東方向に開口させ、墳丘中心点と玄室対角線中点を合致させるように設計・施工された（図 1）。

古墳の正面観は羨道・墓道正面で、周溝の外側には平坦面が広がっていた。遺構の空白域となる当該部を儀礼空間と推定できる。石室内への雨水流入を避けるため、羨道・墓道正面付近の周溝を狭く、深く掘削し、緩斜面の方向に平行する排水溝（SD2）を接続させた。合理的な排水対策で、石室内と儀礼空間の良好な環境保持に努めたことがうかがえる。

2 横穴式石室

(1) 石室構造とその特徴（図 1）

玄室長 3.6m、玄室幅 1.2m、羨道長 2.2m、羨道幅 0.7m で、奥壁側から見て右側に袖をもつ狭長な片袖式石室（玄室比 3.0）である。羨道に約 1m の短小・幅狭の墓道が接続する。石室掘り方は奥壁から墓道に向かって窄まる形態で、墓道壁面（左壁）下部は石室掘り方がそのまま利用されていたと考えられる。墳端の崩れがあるので、尺度論には立ち入らない。

段丘礫を用いた壁体は、基底石を腰石として立位に据え、かつ長手積みする。その上部は小口積みし、長側壁は煉瓦積み主体と考えられる。本石室は、①基底石と樋石に他より大形の段丘礫を用い、それは特に玄室基底石に顕著なこと、②段丘礫（河原石）積みの横穴式石室では基底石から平積みが多いなかで腰石技法を採用していること、③樋石頂部と床面の比高が 45cm と大きいことが特徴である。腰石技法は県内初の確認例となった（注1）。

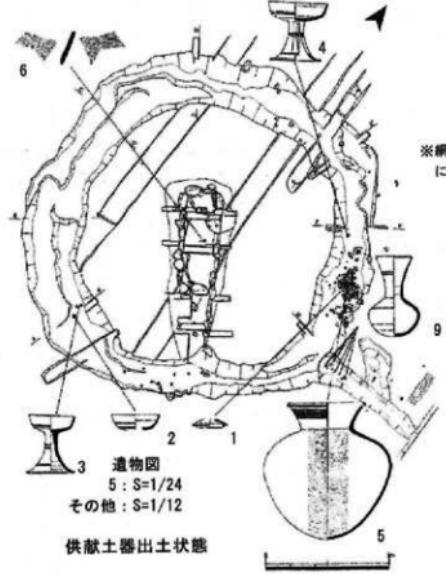
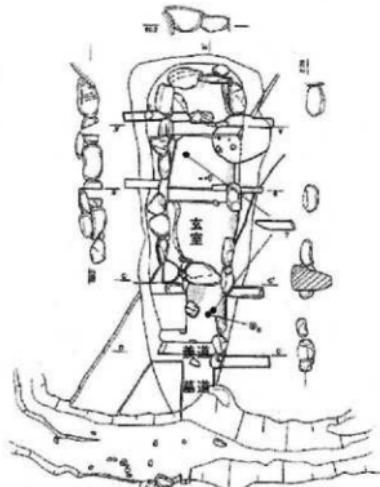
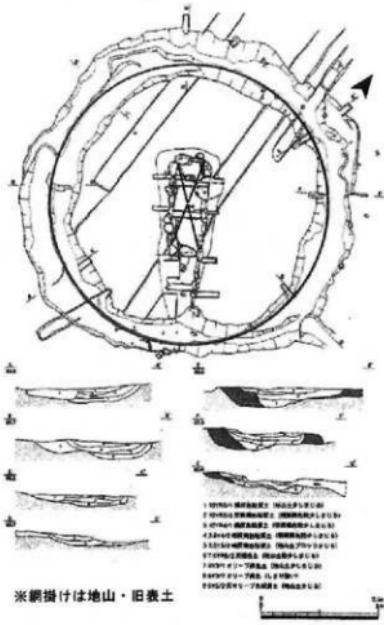
(2) 石室構造からみた年代観

① 富山県内の資料からの検討

酷似例はないが、狭長な片袖式石室（小黒 2006b）という点では 6 世紀前葉（MT15 型式期）の氷見市朝日長山古墳石室が類似する。二本榎遺跡 SZ01 石室より狭長（玄室比 4.0）だが、玄室幅（1.2m）は共通する（注2）。資料化された 7 石室から判断する限り、県内の横穴式石室は玄室が狭長な石室群（片袖式・無袖式）と両袖式石室群に大別できる。前者は朝日長山古墳石室・高岡市桜谷 8 号墳石室・二本榎遺跡 SZ01 石室・富山市伊豆宮古墳石室・上市町齊ノ神新 8 号墳石室が該当し、2 級別も可能である。後者は富山市吳羽山古墳石室・射水市生源寺新十三塚古墳石室が該当する。

北陸の導入期横穴式石室では狭長な例が少なく、朝日長山古墳石室は特殊例である。二本榎遺跡 SZ01 石室が含まれる狭長な石室群の年代幅を想定することは難しいが、6 世紀末葉（桜谷 8 号墳石室）（注3）、7 世紀中葉頃か（齊ノ神新 8 号墳石室）と推定される例があり、朝日長山古墳石室以外の 4 石室は 6 世紀末葉以降、新しい時期のものほど無袖化したことがうかがわれる（注4）。二本榎遺跡 SZ01 石室に 6 世紀前半の可能性を想定する必要はない。

両袖式石室は少ないが、新しい時期ほど玄室が短くなる（玄室比 2.1 程度→1.4 程度）。



石室内副葬品出土状態（遺構図 S=1/100）



横穴式石室実測図（S=1/100）



採集土器

図1 二本榎遺跡 SZ01 の築造規格、供獻土器等出土状態、採集土器
(富山市教委 2012 を改変作図)

②北陸の資料からの検討

富山県以外の北陸各地（福井県・石川県・新潟県）の横穴式石室にも、石室全体としての二本榎遺跡 SZ01 の酷似例は見出しがたい。それは、横穴式石室壙の盛行に伴い在地化が進み、地域性が発現するとともに、地域ごとの石材環境に応じた構造で構築されることが多いことが理由と考えられる。一般的な傾向として、玄室の狭長化は後出的要素と捉えられる場合が多い。問題は、北陸の片袖式石室の構築時期の下限をどこに求めるかである。

二本榎遺跡 SZ01 石室を基準に、玄室比 3.0 以上の狭長な片袖式石室を探索すると、福井県おおい町畠村古墳石室（TK209 型式期・玄室比 3.1）、福井市法土寺 3 号墳石室（TK209 型式期・玄室比 4.1）、石川県白山市田地古墳石室（TK209 型式期・玄室比 4.5）、石川県野々市町上林古墳石室（TK209 型式期・玄室比 3.0 程度）を例示できる。

使用石材の親縁性（河原石）を考慮するなら、田地古墳石室・上林古墳石室（注5）が参考になるものの、相違点もある。それは、二本榎遺跡 SZ01 石室が両石室と比べて袖部が明瞭で、袖の位置が異なることである。ただし、TK209 型式期における玄室比 3.0 未満の片袖式石室では、二本榎遺跡 SZ01 石室のように袖部が明瞭なものも認められるので、二本榎遺跡 SZ01 石室の袖幅を特別視することはできない。また、両石室では認められない腰石技法が採用されたことも相違点である。二本榎遺跡 SZ01 石室の腰石技法は、桜谷 8 号墳石室といった在地化した石室に由来する可能性が高い（注6）。

以上から、北陸における狭長化した片袖式石室の下限として TK209 型式期（6 世紀末葉～7 世紀前葉）を想定できることになる。二本榎遺跡 SZ01 石室は、構造上の特徴からこの時期幅で捉えられ、供獻土器等の年代観も考慮して絞り込むことになる。

SZ01 石室は、構造や使用石材から北加賀の小古墳との類似性を指摘できた。当該石室は高度な構築技術を必要としない構造であり、北加賀からの集団移住も想定不可能ではない。北加賀の 2 石室との間における類似しない要素の評価が重要な検討課題となる。

3 供獻土器と採集土器（須恵器）

(1) 出土状態と型式観（図 1）

墳丘側から周溝に転落した状態で短脚の無蓋高杯が 3 個体出土した。これらは、出土した供獻土器のなかで最も年代推定が容易である。脚部が遺存しないものが 1 個体（報告書遺物番号 2、以下番号のみ記す）、ほぼ完存するものが 2 個体（3・4）ある。胎土や形態的特徴か

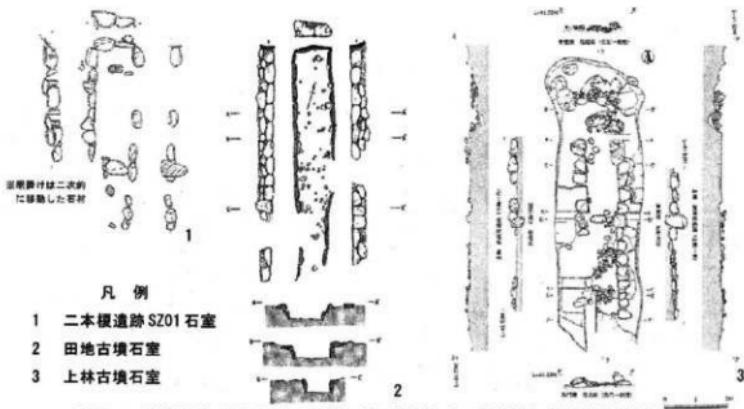
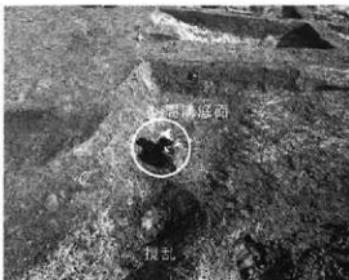


図 2 二本榎遺跡 SZ01 石室の類例（S=1/150、2・3 是報告書等から引用）



ら一見して在地の製品とわかる。在地の上野編年（上野 2005）では射水 1 期（新）～射水 2 期（古）に相当する。全国的な相対的位置付けを行うために陶邑編年（田辺 1981）に当てはめると、いずれも TK209 型式期に位置づけられる。土器群の出土層位は報告されていないが、現地観察所見と報告書写真等（注7）による限り、2 は周溝底面付近、3・4 は周溝中位付近で出土したものである。

排水溝（SD2）付近の周溝中位～上位で、幅 3m にわたって破碎した大甕の破片がばら撒かれていた。水平に分布しないことから、破碎行為は墳丘盛土と周溝端部との間の平坦面か、周溝外の平坦面で行われた可能性が高い。大甕破片の散布域で蓋（1）の破片も出土した。また、排水溝中位～上位で長頸壺（9）の破片が出土し、周溝出土破片とも接合した。これらは無蓋高壺の年代観より新相だが、詳細な年代推定は難しい。大甕・長頸壺に比べて年代推定が可能な蓋は、TK217 型式期に位置づけられる。上野編年では射水 2 期（新）に相当しようか。同様に、大甕も TK217 型式期、長頸壺は TK217～TK46 型式期であろうか（注8）。

かつて石室内から採集されたと推測される提瓶 4 個体のうち現存する 3 個体が資料化された（富山市教委 2012、図 1）。上野編年では射水 2 期に特徴的な形態的特徴をもつ。供獻土器の年代観も考慮すると、TK209 型式期～TK217 型式期の幅で捉えられる。

（2）曆年代観

筆者は TK43 型式以降、7 世紀の須恵器の曆年代観を次のように理解している。587 年から創建が開始されたとされる飛鳥寺下層出土須恵器が TK43 型式に相当することから、TK43 型式の下限年代を 590 年前後と推定する。TK209 型式以降は巽淳一郎氏の理解（巽 1996）を参考とし、下限年代を 640 年前後と推定する。TK217 型式の下限年代は 670 年代後半、TK46 型式の下限を 690 年代前半と推定する。TK209 型式については、白石太一郎氏の理解（白石 1996）を参考に 3 段階に細分する。例えば長脚二段無蓋高壺では、三方透かしのみの段階を TK43 型式、三方透かしと二方透かしが並存する段階を TK209 型式古段階、二方透かしのみの段階を TK209 型式中段階以降と比定する（注9）。

（3）二本榎遺跡 SZ01 の初葬時期と追葬期間

SZ01 では、TK209 型式期、TK217 型式期、さらに TK46 型式期に下る可能性がある供獻土器が墳丘から周溝内に転落し、あるいはばら撒かれていた。個体数と出土層位を勘案すると、周溝底面付近が TK209 型式期、周溝中位～上位は TK209～TK46 型式期の葬送儀礼で供獻された須恵器が堆積したものと考えられる。

周溝は最大 40cm の深度で遺存していたが、底面付近から中位までが須恵器 1 型式なのに對し、周溝中位～上位は最大で須恵器 3 型式と幅がある。自然堆積した周溝において、同じ堆積厚（約 20cm）で須恵器の型式幅がある理由は、TK209 型式期の年代幅が他型式期より

長いことにあると考えるべきだろう。無蓋高坏の形態的特徴に注目すると、周溝底部付近で出土した1は坏部に段が2つあるのに対し、周溝中位付近で出土した3・4は沈線が1条あるのみで、後者が後出的様相と捉えられる。無蓋高坏の細部形態差は、同時期に製作・使用されたものの周溝への転落時期差が生じたと解釈するのではなく、製作・使用時期の差が出土層位の差につながったと解釈すべきものである。

以上の検討から、SZ01はTK209型式期（7世紀初頭前後）に造営・初葬され、TK209型式期（7世紀前葉）・TK217型式期（7世紀中葉）に追葬された。さらにTK217～TK46型式期（7世紀中葉～後葉）に追葬された可能性も残る。遺存する初葬時の供献土器が1破片のみであることは、供献土器が1回目の追葬時までに片付けられたことに起因する蓋然性が高い。採集土器は1回目または2回目の追葬で副葬されたものと考えられる。最新相の供献土器は追葬ではなく、追葬終了後の墓祭祭で供献された可能性もある。

以上から、本石室では最低3回の埋葬が行われたと判断できる。なお、摸道床面直上の堆積土出土炭化物（クリ）の放射性炭素年齢正年代がcalAD585～calAD637だった（パリノ・サーヴェイ株式会社 2012）ことは、初葬および1回目の追葬に関する考古学的推定年代とも整合する。

4まとめ

富山県域において、横穴式石室は6世紀前葉に地域首長層（朝日長山古墳）とその関係者（桜谷7・14号墳）のみが導入できた（小黒2005a、第Ⅰ期）。6世紀中葉～後葉の空白期（第Ⅱ期）を経て、6世紀末葉～7世紀中葉頃にかけて少數ながらも本格的に導入された（第Ⅲ期）。第Ⅲ期には横穴墓も県西部で盛行した。二本榪遺跡SZ01石室は、第Ⅲ期のなかで初期の事例、また片袖式石室としては最終段階の事例である。本墳の歴史的意義を検討するには資料が乏しく時期尚早だが、現時点での見通しを示し、今後の調査研究の礎としたい。

存在形態 SZ01が単独墳か、群集墳中の1基なのかによって評価が大きく変わる。道路法線内の試掘調査（注10）で確認された古墳は本墳のみで、周辺に古墳は確認されていない。剖平等により視認できない可能性も残り、調査区東側の緩斜面の物理探査等が必要である。

岡崎進農園内の「御坊立」出土とされるほぼ完形の須恵器群（婦中町1967・1997）には5世紀後葉・6世紀前葉・7世紀前葉・7世紀後葉のものが含まれ、遺存状態から古墳出土品の可能性があるものの、同一古墳からの出土品とは考えにくい。5世紀後葉～6世紀前葉、7世紀代の古墳群が「御坊立」にあったとの解釈もできようが、一般的には墓域を違える場合が多いので違和感が残る。詳細

表1 富山県内の主要横穴式石室の変遷

段階	時期	玄室が狹長な石室群		両袖式 石室群
		片袖式	無袖式	
第Ⅰ期	MT15型式期 A.D.500	朝日長山古墳		
	TK10型式期 A.D.550			
第Ⅱ期	MT85型式期			
	TK43型式期			
第Ⅲ期	TK209型式期 A.D.600	桜谷八号墳	二本榪遺跡SZ01	具羽山古墳 生瀬寺新十三塚古墳
	TK217型式期 A.D.650	伊豆宮古墳	青ノ神新八号墳	
	TK46型式期			

不明であり、「御坊立」や須恵器群の検討が必要である。

SZ01 から東北東約 300m にある小長沢 3 号墳も詳細不明だが、古式の須恵器細片が表採されている。器種は推定不能だが、断面がセピア色で陶邑産の可能性がある。富山県東部地域では、TK216～TK23 型式期の須恵器が少數流通するものの、本格的に流通するのは TK47 型式期からで、TK10 型式期に流通量が激減した後、TK43 型式期以降に再度流通量が増加する（小黒 2003）。北陸では MT15 型式期に須恵器生産が開始されるので、陶邑産須恵器の流入はほぼ 5 世紀代に限られる。この点を考慮すると、小長沢 3 号墳は 5 世紀後半代の蓋然性が高くなる。現状では、二本榎遺跡 SZ01 と同様の時期の古墳とは推定できない。

以上から、現状では SZ01 を単独墳と想定するのが妥当である。ただし、小円墳であることから、過大評価は慎まなければならない。

井田川流域の 7 世紀史 井田川流域の 6～7 世紀の社会状況は不明瞭である。その理由は当時の開発があまり進んでいなかったことによると思われる。当該期の遺跡分布が粗いために、不明瞭な状況にあると解釈する。この前提に立つと、7 世紀初頭前後から徐々に開始された当地の開発を主導した集団のリーダー層の古墳として、SZ01 が造営された蓋然性が高いのではなかろうか。SZ01 では 7 世紀後葉あたりまで半世紀以上にわたって埋葬やそれに関わる行為が行われたことから、当該期間の開墾集落が近隣に存在する可能性は高い。飛鳥時代の地域開発との視点で SZ01 や周辺の関連資料を検討する必要がある。また、注 4 で示した熊野川流域の伊豆宮古墳・古代集落群の展開などとの比較検討も必要だろう。

おわりに

井田川流域の地域勢力は弥生時代後期後半～古墳時代前期前半に隆盛を極めたが、それ以降は衰退する。古墳時代中期後半～後期前半の古墳が存在した可能性もあるが、現時点では不明瞭な飛鳥時代以降の地域開発の先駆けとなった小集団が残した古墳として、二本榎遺跡 SZ01 を想定することができるのではなかろうか。

注

- (1) 資料化された他 6 例の県内資料は調査年次が古い。腰石技法かどうか確認されておらず、因而から確実視できる例もない。ただし、北陸では福井県永平寺町鳥越山古墳第 2 主体部（TK23～TK47 型式期）での初現後に北部九州系横穴式石室、あるいはそれらを源流として在地化した横穴式石室で広く採用される。富山県内でも氷見市朝日長山古墳石室や高岡市桜谷 8 号墳石室など、採用された可能性を否定できない例はある。
- (2) 朝日長山古墳は 6 世紀前葉における北陸有数の地域首長墳で、県内最古の横穴式石室導入例の一つである。特異な形態的特徴をもつ北部九州系横穴式石室であり、また二本榎遺跡 SZ01 とは被葬者の階層が絶対的に異なるので、両石室に直接的な関係は想定できない。
- (3) 桜谷 8 号墳石室（大村 1926）の玄室床面は土間で、奥部中央に石枕と考えられる平石があった。当該埋葬は、九州の横穴式石室が「棺」そのもの、つまり遺体を直接収める部屋であるという埋葬原理（藏富士 2007）を源流とするものであった。副葬品の出土状態（聞き取り）から、桜谷 8 号墳石室では複数回の埋葬が行われたが、少なくとも平石が使用された埋葬時は遺体を木棺内に収容せず、土間面で主軸平行葬したことがわかる。
- (4) 玄門部幅 0.65m の二本榎遺跡 SZ01 石室は木棺搬入が困難であり、木棺に収容せずに遺体を玄室内に搬入した可能性が高い。
- (5) 伊豆宮古墳は直径 18m の単独首長墳（円墳）と推定され、TK217 型式期の須恵器のほか、刀子・紡錘車や TK209 型式期の壺鉢といった鉄製品が出土した。本墳は周辺（熊野川流域）で 7 世紀後葉から展開する古代集落群と密接に関係すると考えられる（小黒 2005b・2006a）。伊豆宮古墳石室の玄室比は 2.9（玄室長 4.0m・奥壁幅 1.4m）で、齊ノ神新 8 号墳石室は玄室比 2.5（玄室長 2.5m・玄室幅 1m）である。
- (6) 両石室は約 2.7km しか離れておらず、石材や構造の類似性から同一石室群と評価できる。

して利用されていた。1918(大正7)年には同地番から2・3枚の大石が搬出された。1924(大正13)年12月に約100個の石材が掘り出され、翌年4月に大村正之氏が現地調査と聞き取り調査を行って復原仮想図が作成された。調査以前で大部分の石材が失われ、二次的な移動を経ていたが、奥壁と片方の長側壁(東壁)は原状を保つと判断された。石室全体としては狭長な羽子板状に復原された。羽子板状の玄室をもつ無袖式石室としては伊豆宮古墳石室がある。

桜谷8号墳石室は築造末端から2間ほど石積みが存在したらしく、筆者は閉塞石と解釈する。閉塞石の下には、大型扁平石材(縦横7~8寸、厚さ4~5寸)による礎床があつたらしい。閉塞石が認められない部分が玄室となる可能性が高いので、玄室長は3.1m程度、玄室比は1.9程度となる。二本榪遺跡SZ01石室と比較して、桜谷8号墳石室は石室規模や玄室比など石室構造總体として古相を示すと判断してよいだろう。

- (7) 確認調査を担当した藤田慎一氏(株式会社上智 主任調査員)から出土状態の詳細についてご教示を得た。記して、感謝申し上げます。
- (8) 上野 章氏は、射水2期がTK217型式期、同3期がTK46型式期にはほぼ該当するとされた。
- (9) TK209型式の厳密な段階比定は、良好な一括資料でない限り、困難を伴う。
- (10) 計画法線が変更されたことで、二本榪遺跡内で二度にわたり試掘調査が行われた。今回の確認調査範囲の延長上の部分と、平行する東側約50mの位置で、遺跡を縦断するように試掘調査が行われた。埋蔵文化財の所在が確認されたのは今回調査範囲のみである。

文献

- 上野 章 2005 「越中の7世紀の須恵器変遷について」『ふくおかの飛鳥時代を考える—富山・能登の横穴墓からのアプローチー』ふくおか歴史文化フォーラム資料集 福岡町教育委員会・富山考古学会
- 大村正之 1926 「桜谷古墳群」『富山県史跡名勝天然記念物調査会報告』第7号 富山県内務部
- 小黒智久 2003 「越中東部地域における初期須恵器」『富山市考古資料館報』No.40 富山市考古資料館
- 小黒智久 2005a 「古墳時代後期の越中における地域勢力の動向」『大境』第25号 渋 晨先生追悼号 富山考古学会
- 小黒智久 2005b 「吳羽山丘陵の横穴墓群」『ふくおかの飛鳥時代を考える—富山・能登の横穴墓からのアプローチー』ふくおか歴史文化フォーラム資料集
- 小黒智久 2006a 「越中における古墳編年」『北陸の古墳編年の再検討』平成17年度富山大学人文学部公開研究会資料 富山大学人文学部考古学研究室
- 小黒智久 2006b 「飛驒の古墳と日本海」『山からみた日本海文化I』日本海文化研究所公開講座平成17年度記録集 富山市日本海文化研究所
- 藏富士寛 2007 「北部九州の埋葬原理と石室構造」『研究集会 近畿の横穴式石室』 横穴式石室研究会
- 白石太一郎 1996 「土器よりみた古墳の年代」『千葉県成東町駄ノ塚古墳発掘調査報告』国立歴史民俗博物館研究報告第65集 国立歴史民俗博物館
- 糸淳一郎 1996 「飛鳥時代の土器」『東アジアにおける古代国家成立期の諸問題』 福島古代史シンポジウム実行委員会
- 田辺昭三 1981 『須恵器大成』 角川書店
- 富山市教育委員会 2012 『富山市二本榪遺跡確認調査報告書—主要地方道小杉婦中線道路改良事業に先立つ確認調査報告—』富山市埋蔵文化財調査報告48
- パリノ・サーヴェイ株式会社 2012 『二本榪遺跡の年代測定・微化石分析・石材鑑定』『富山市二本榪遺跡確認調査報告書—主要地方道小杉婦中線道路改良事業に先立つ確認調査報告—』
- 婦中町 1967 『婦中町史』
- 婦中町 1997 『婦中町史 資料編』

納屋内高史
(埋蔵文化財センター嘱託学芸員)

はじめに

富山市北東部は常願寺川の右岸に位置し、古くから常願寺川の氾濫を受けてきた。それは裏を返せば、豊富な水資源に恵まれてきたと言ふことでもあり、本地域の遺跡からは、通常の遺跡では腐って消滅してしまう種子や木製品などが、水漬け状態で外気と遮断された状態で多数出土している。

ここでは本地域の遺跡から出土した製品の素材の同定結果を基に、特に古代から中近世における植物利用について考えたい。

1 製品素材から見た植物利用の傾向

本地域の遺跡のうち、発掘調査で木製品が出土し、かつ、その樹種同定結果が公表されている遺跡は図1の5遺跡である。

各遺跡の分析結果を見てみると、本地域ではスギやアスナロ(アテ)、ブナ属などが多く用いられており、特に中世以降スギ以外の樹種の利用が盛んになることが見て取れるほか、用途により、使用する樹種が異なる傾向がみられる(表1)。まず、柱や礎板などの建築材や杭、井戸枠など、土木・建築用途に用いられるものは、スギやアスナロ、クリなどが主に用いられており、特にスギの利用が多い。漆器や曲物等、食器類の素材として用いられるものは、ブナ属やアスナロ、トチノキ、ヒノキなどが主に用いられており、特にブナ属の利用が多い。また、木簡や木札にはスギやアスナロが主に用いられている。これらの樹種のうち、スギやアスナロは、針葉樹であるため、縦割材を取りやすく、湿度や気温などの環境変化に対する耐久性があることから、現在でも建築部材としてよく用いられる樹種である。クリも加工しにくいものの、硬く耐久性が高いことから、建築部材として用いられている事例がある。また、ブナ属は麻りやすく、加工後の狂いが出やすいが、強度が高く、加工しやすいため、現在でも、家具や曲物、漆器の素材としてよく用いられている。木簡や木札にスギやアスナロが主に用いられていることについては、針葉樹であるため縦割材を探りやすいこと、木目が美しいことなどが関係しているのであろう。

植生分布に目を向けると、水橋地域周辺では、山間部ではブナなどの落葉広葉樹林が発達し、スギやヒノキなどの常緑針葉樹林はあまり発達しない。また、丘陵や台地上については自然植生が人為的な影響を受けて変質したものである代償植生として、コナラやミズナラなどの落葉広葉樹林が見られる。先にも述べたように、本地域ではスギやアスナロ、ブナ属などが多く利用されているが、特にスギやアスナロ、ヒノキといった、主に山間部に生育する常緑針葉樹については、遠方より素材を入手していた可能性も考える必要があるだろう。

2 他地域との比較

本地域の傾向を出土木製品の全国的な傾向と比較してみると、建築・土木用途に用いられるものは、全国的にヒノキ、スギが多く、全国的な傾向とおおむね一致するが、全国的にはあまり利用されていないアスナロが、特に中世以降一定量利用されている点は注目される。周辺地域の遺跡では、小杉町針原東遺跡で中世以降、スギ以外にアスナロまたはクロベと考え

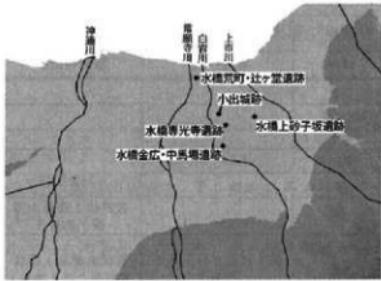


図1 対象とする遺跡

られる樹種が利用されるようになるほか(パリノ・サーヴェイ 1994)、高岡市下老子笠川遺跡では近世以降、広葉樹やスギに代わってアスナロやサワラが用いられるようになることが指摘されている(三村 2006)。しかし、隣県の石川県では、中近世遺跡でもスギがほとんどで、アスナロは小松市淨水寺遺跡などでごく少量出土しているのみである。その為、本地域で見られたアスナロの一定量の利用という特徴は、富山県内の中近世遺跡における木材利用の特徴といえるだろう。富山県内の遺跡出土の建築部材は、柱根について、スギが石川県ほど利用されていないことがこれまでに指摘されているが(町田 2003)、それだけに止まらない特色ある木材利用を行っていたといえる。

また、食器類に用いられるものは、全国的にヒノキ、スギ、ケヤキが多い傾向がみられる

遺跡	水橋荒町・辻ヶ堂遺跡	小出城址	水橋金広・中馬場遺跡	水橋尊光寺遺跡	水橋上砂子坂遺跡
時期	奈良・平安	室町～江戸	室町～江戸	中世～近世	室町～江戸
タケ			編物 1, 炭 8		
マツ属			箱板 1, 炭 2	板 1	
アカマツ		木片 1			
イヌマキ			彌状木製品 1, 杭 1		
ヒノキ属			井戸桶(曲物)1		
ヒノキ		井戸桶 1, 漆器 1, 薄板 1, 木片 1			曲物 1
スギ	板 1, 柱根 2, 井戸桶 3, 斧串 2	箸状木製品 1, 構状木製品 1, 炭 2, 木片 1	井戸桶 15, 鐘 1, 井戸桶(曲物)2, 下駄 1, 柱根 5, 確板 1, 木箆 3, 構 1		木札 1
クロベ属			曲物 1		
クロベ			双六板(埋木)1		
アスナロ			井戸桶 19, 橫杆(頭)1, 曲物 4, 御札, 井戸, 薄板 1, 木箆 2, 構 1	杭 2, 箸 1	杭 1, 曲物 1, 木札 3
イヌガヤ					弓状木製品 1
カヤ			彌状木製品 1		
モクレン			炭 2		
ケヤキ			双六板 1, 大襷 1		
エノキ					炭 1
サワグルミ		下駄 1			
ハンノキ属		井戸桶 1	漆器模 2, 杭 1		
カバノキ属		炭 1			
クマシデ節		炭 1			
ハシバミ属				不明木製品 1	
クリ		炭 2	柱根 2, 橫杆(桿)1, 厚板 1, 炭 9		柱根 2
ブナ属		漆器模 9, 小皿 1, 炭 2	木臼 4, 漆器模 11, 漆器小皿 1	漆器 1	漆器模 2
コナラ節		炭 2	横杆(柄)1		
クヌギ節			横縄 1		
ヤナギ			柱底 1		
リョウブ		炭 1			
エゴノキ属		炭 1			
サクラ			炭 1		
カエデ属		炭 1			
トチノキ			漆器模 2		漆器模 1
キハダ			杭 1		

表 1 水橋地域から出土した木製品一覧

が、本地域ではブナ属が多く用いられていることは特徴的である。ブナ属が食器類、特に漆器に用いられている事例は全国的に見られるが、北陸地方では中世以降、剣物・挽物にブナ属が目立って利用されるようになり、富山県では特にその傾向が顕著である(久田 2012)。本地域の傾向は、そのような北陸地方における中世の木材利用の動向を反映したものといえるだろう。

まとめ

以上のように、過去の水橋地域の人々は、現代の我々と同じように、樹種の特性を踏まえたうえで、用途に応じて樹種を選択していたと言える。また、利用樹種の傾向については、アスナロやブナ属の多用など全国的な傾向とは異なる点が見られた。

これらのことから、本地域では樹種の特徴を踏まえながらも、地域に特徴的な木材利用を行っていたと言えるだろう。

参考文献

- 島地謙・伊藤隆夫編 1988 『日本の遺跡出土木製品総覧』,雄山閣出版,296pp.
- パリノ・サーヴェイ 1994 「針原東遺跡から出土した木製品の材同定」『小杉町針原東遺跡発掘調査報告書』富山県小杉町教育委員会,pp.141-154.
- パリノ・サーヴェイ 1999 「水橋荒町遺跡から出土した木製品等の樹種」『水橋荒町遺跡発掘調査概要Ⅱ』,富山市教育委員会,pp.42-43.
- 富山市教育委員会編 2001 『富山市水橋・金広中馬場遺跡発掘調査報告書・県営農免農道(上条南部地区)整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告2』,128pp.
- 町田賛一 2003 「「木の家」・柱根の樹種鑑定から建物を考える」『富山考古学研究』6,富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所,pp.25-36.
- 長谷川益男 2005 「富山市水橋荒町・辻ヶ堂遺跡出土木製品の樹種について」『富山市水橋荒町・辻ヶ堂遺跡発掘調査報告書・病院施設等建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(2)』富山市教育委員会,pp.22-24.
- 富山市教育委員会編 2006 『富山市水橋金広・中馬場遺跡発掘調査報告書Ⅱ・県営農免農道(上条南部地区)整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告3』,161pp.
- 三村昌史 2006 「木製品の樹種同定」『下老子坂川遺跡発掘調査報告書・能越自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘報告』富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所,pp.128-136.
- 吉田生物研究所 2007 「富山市水橋専光寺遺跡出土木製品の樹種同定結果」『富山市内遺跡発掘調査概要Ⅱ 水橋専光寺遺跡・宮町遺跡・鍛冶町遺跡』,富山市教育委員会,pp.6-9.
- 富山市教育委員会編 2007 『富山市小出城跡発掘調査報告書』,70pp.
- 吉田生物研究所 2009 「理化学的分析・井戸枠材の樹種調査」『富山市水橋金広・中馬場遺跡発掘調査報告書・市道水橋中馬場線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告』富山市教育委員会,p.15.
- パリノ・サーヴェイ 2008 「樹種同定」『小松市淨水寺遺跡』石川県教育委員会・石川県埋蔵文化財センター,pp.395-404.
- 吉田生物研究所 2009 「出土木製品の樹種調査結果」『富山市内遺跡発掘調査概要Ⅳ・水橋上砂子坂遺跡・小竹貝塚』富山市教育委員会,pp.25-33.
- 久田正弘 2012 「中部日本海側」『木の考古学』,pp.210-223.

鹿島昌也

(埋蔵文化財センター主査学芸員)

はじめに

「中世富山城推定地」は富山市千石町から星井町にまたがる約12万m²の埋蔵文化財包蔵地（以下「包蔵地」とする）として平成5年『富山市遺跡地図』に搭載されている。富山市街地には、この他「富山城跡」や「総曲輪遺跡」などが搭載されている。

近年の富山城址公園整備事業に伴う試掘調査や発掘調査で、戦国期の堀跡などの遺構や中世土師器・珠洲焼・茶臼などの遺物が現在の「富山城跡」本丸付近から見つかっていることから、中世富山城の位置が近世富山城の下層に所在することがほぼ確定された（注1）。

のことから、包蔵地「中世富山城推定地」の名称を変更する必要が出てきた。よって、平成25年3月発行の『富山市遺跡地図』で「中世富山城推定地」から「千石町遺跡」に変更することになった。

今回、「千石町遺跡」として搭載される包蔵地における近年の調査成果を紹介し、今後のこの遺跡のあり方や課題を提示したい。

1 試掘調査の概要

「中世富山城推定地」内では、平成20年以降、マンション建設や住宅新築・建て替え、駐車場造成などに伴う試掘調査が実施してきた。いずれの調査においても、ほぼ近世以降の富山城下町に伴う遺構や遺物が出土していた。

そうした中、平成23年に千石町4丁目で実施した住宅新築に先立つ試掘調査において、近世期の遺構面の下層から中世期の遺物包含層（珠洲焼・中世土師器が出土）及び遺構面を検出し、当包蔵地内ではじめて中世期の遺跡を確認することができた。しかし、その状況から中世期に城館遺構が所在していたとは認められず、中世期（室町時代以降）の集落跡の一端がみつかったと推測される。

2 城下町遺跡の取り扱いについて

その一方で近年、城と城下町を有する都市部において、遺跡の時代範囲を江戸時代の「総構」（城下町を囲い込んだ堀や土塁）で囲われた城と城下町までを含めて包蔵地とする考え方方が示されている（注2）。近隣では金沢市で平成23年から「総構」で囲われた城下町を全て包蔵地として取り扱うこととした。しかし、このような事例はまだ少なく、大阪市などのように城に隣接する一角のみを城下町遺跡として包蔵地の取り扱いを行っている例が多い。

文化庁は平成10年通知で埋蔵文化財として取り



富山市街地における主な遺跡



千石町4丁目の土層堆積状況

扱うべき遺跡の範囲として、近世に属する遺跡については、地域において必要なものを対象とすることをできることとしている。今後、都市部の再開発や住宅の建て替えが進む中で、富山市においても市街地の地下1mから下に良好に残る近世の「城下町」遺跡をどう取り扱っていくべきか検討する時期に来ていると思われる。

3 「千石町遺跡」からみた富山城下町の様相

富山城下町の様子は①『越中国富山古城絵図』(江戸初期)や②『万治年間富山旧市街図』(江戸前期)③『富山城下絵図』(江戸後期)などから類推することができる。近年、江戸時代前期以降城下町の南限となっていた四ツ谷川が星井町付近で西に流れを変えているが、江戸時代初期には一番町方向に流れを変えていたことが明らかとなった(注3)。現在の国道41号線の東側に沿うように南北方向の川筋があったとみられる。

千石町3丁目における試掘調査では、地下1~2mの黒色泥炭層中から陶磁器に混じって漆器や下駄など木製遺物が良好な状態で出土し、旧四ツ谷川のある谷筋から西に派生する小支谷の存在が推測される。

一方、千石町4~5丁目における試掘調査では、地下70cm~1m以下に江戸時代の陶磁器を含む水田耕作土層や近世陶磁器を多数含む遺物包含層が確認でき、一帯が水田だった時期や町人地や武家屋敷地だったことが推測される。

出土した陶磁器の中には「諏訪大明神」や「口つり」、「中」と墨書きされた越中瀬戸の素焼きの皿(灯明皿)も出土し、城下町における信仰や生活の実態を解明する上で貴重な資料も出土した。

おわりに

富山市街地が城下町であったことを知らない人が多い。今後は現在の市街地が形成される元となった城下町について遺跡調査からの解明に期待したい。

注

(1) 富山市教育委員会 2004 『富山城跡試掘確認調査報告書』

(2) 文化庁・東京都教育委員会『平成24年度第2回埋蔵文化財担当職員等講習会発表要旨』

(3) 北日本新聞 2011年9月6日付け記事

文献

富山市郷土博物館 2005 『富山城ものがたり』



千石町3丁目の土層堆積状況
(点線から下部が谷の堆積土)



千石町遺跡から出土した遺物(一部)

(写真の左下3点は中世、その他は近世)

研究余話IV 富山町石工佐伯伝右衛門について

古川知明
(埋蔵文化財センター所長)

はじめに

石工佐伯伝右衛門について、筆者は旧稿において、富崎村（現富山市婦中町富崎）出身の神通川石工の一人として紹介した〔古川 2011〕。しかしその後、伝右衛門の在銘石造物の調査が進展し、伝右衛門が富山町石工であることが判明したため、本稿において訂正するとともに、伝右衛門における石造物製作の具体像を把握するものである。

1 研究史

佐伯伝右衛門作石造物を最初に紹介したのは、尾田武雄氏による砺波市芹谷山千光寺の宝篋印塔報告である〔尾田 1995〕。天明 6 (1786) 年造立宝篋印塔の銘文を紹介し、台座東面に「越中富山住人 大石工 佐伯伝右衛門」とあることを報告した。

筆者は、法界山常楽寺宝篋印塔が佐伯伝右衛門作であることを確認し、千光寺宝篋印塔と合わせ、製作の特徴を紹介した〔古川 2011〕。この中で銘文をもとに本寺の所在する富崎村出身の石工とした。しかしその後銘文の詳細調査を行ったところ、「富崎」ではなく、後述のように「富城」、すなわち富山城下町に工房を持つ富山町石工であることが判明した。ここで訂正しておきたい。

また筆者は、千光寺宝篋印塔における浮彫文様が吉祥文を採用した最古の事例であり、その後吉祥文の付けられる位置が変化したことを示した〔古川 2012〕。

2 伝右衛門製作石造物の概要

伝右衛門が製作した石造物は 4 基があり、すべて寺院に置かれた宝篋印塔である（表 1）。

(1) 千光寺宝篋印塔

砺波市芹谷の真言宗芹谷山千光寺境内に所在する。石塔は 63 世順通代の天明 6 (1786) 年に造立された。相輪・笠・塔身 4 段・基礎 2 段の 8 段構成である。本体下には凝灰岩の板石組基壇がある。本体は立山天狗山石製で、基礎に祥雲文・波涛文を用いるほか、中央に牡丹、その左右に獅子・狛犬を置く構図の浮彫文様がある。

特徴的な造形として、基礎を四脚にし、中央に鰐頭形の支え石を置く。支え石側面には龍文と波涛文が浮彫される。造形はかなり細部まで細かく彫出した精巧な作品である。

基壇は笏谷石切石積で、箱形である。基壇基礎は軟質の凝灰岩である。基壇以下は当初からのものか不明である。台座東面には「越中富山住人／大石工／佐伯伝右衛門勝行」と刻銘がある。

(2) 常楽寺宝篋印塔

富山市婦中町千里の真言宗法界山常楽寺境内に所在する。石塔は、寛政 3 (1791) 年造立て、相輪・笠・塔身 4 段・基礎 2 段・基壇 4 段の 12 段構成である。石材・形態ともに千光寺と近似し、基礎下部の牡丹・

表1 佐伯伝右衛門作石造物一覧

番号	在銘年号 和暦 西暦	所在地	寺院情報	石工名表記	石材	意匠
						意匠
1	天明6 1786	砺波市芹谷	真言宗芹谷山 千光寺	越中富山住人 大石工 佐伯伝右衛門勝行	安山岩・ 凝灰岩	祥雲文・波涛文・牡丹文・獅子・ 狛犬文(基礎)/龍文・波涛文(支え石)
2	寛政3 1791	富山市婦中 町千里	真言宗法界山 常楽寺	富城住人/石工/佐 伯伝右衛門/吉忠	安山岩	祥雲文・波涛文(基礎)/龍文・ 祥雲文・波涛文(支え石)
3	寛政7 1795	富山市太田 南町	真言宗立本山 刀尾寺	富山/伯佐/石工/ 伝右衛門	安山岩	なし
4	文化2 1805	富山市八尾 町深谷	真言宗深谷山 抵樹寺	—	安山岩	龍文・祥雲文・波兔文(鰐頭 形)

獅子・狛犬の浮彫りの欠落、基壇が6段の階段状である等相違がある。

基礎2段目の切石に「富崎住人／石工／佐伯傳右エ門」と刻銘がある。基礎1段目側面の狹狭間にには、祥雲文・波済文を浮彫りする。本塔での大きな特徴は、基礎1段目の下半を四脚として立体化し、中空となった中央に饅頭形の支え石を入れている。その支え石の側面には龍文・祥雲文・波済文が浮彫りされている。

(3) 刀尾寺宝篋印塔

富山市太田南町の真言宗立本山刀尾寺境内に所在する。石塔は、寛政7年造立てで、相輪・笠・塔身4段・基礎・基壇4段の11段構成である。形態は、これまで見られた基礎の四脚+支え石は無くなり、常願寺川石工製作宝篋印塔と基本構造が共通した形態に変化する。また基礎・基壇側面に見られた浮彫文様は消滅し、簡素化する。

石工名は、基壇1段目東面に「富山／佐伯／石工／傳右エ門」と刻銘がある。「佐伯」を入れ替え「伯佐」としている。

(4) 柏樹寺宝篋印塔

2012年に実測調査を行い報告した宝篋印塔である(図1)【富山市教委埋文センター編 2012】。

富山市八尾町深谷の曹洞宗深谷山柏樹寺境内に存在する。文化2(1805)年25世住職俊英和尚により造立された。相輪・笠・塔身4段・基礎・基壇5段の12段構成である。相輪上部が欠損する。

饅頭形(敷茄子)3面に浮彫文様があり、正面に龍と祥雲文(図2)、そのほかの面には四足動物(兎)・波済文すなわち波兔を表現する。

基壇板石には4面に計166名の僧籍者位号・信徒戒名の刻銘と、4段目最末尾に「三界万靈」の刻銘がある。これらの人々は順主か供養者が不明であり、過去帳の分析を待たねばならない。本塔には石工銘は存在しない。

3 伝右衛門作例についての分析

(1) 伝右衛門の刻銘

3基の宝篋印塔には、伝右衛門が石工名を刻銘している(図3)。

千光寺では伝右衛門勝行、常楽寺では伝右衛門吉忠となっており、別人であることがわかる。字体も「石」に点の有無、「工」に通常形とコ形等の相違が認められる。ここでは勝行を初代伝右衛門、吉忠を2代伝右衛門とする。刀尾寺では、「石」に点があり、「工」が通常形であることから初代勝行と考えられる。刀尾寺ではまた、「佐伯」が「伯佐」と反転しており、2代吉忠との差別化を表現したものとも考えられる。



図1 柏樹寺宝篋印塔



図2 饅頭形の龍文

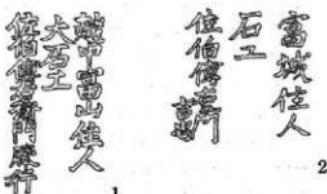


図3 伝右衛門の刻銘

1:千光寺、2:常楽寺、3:刀尾寺

表2 宝篋印塔の属性

番号	在銘年号 和暦	寺院	塔高 寸	南北突 起外傾 角度	軸2銘文			基礎銘文
					正面	背面	その他面	
1	天明6	1786 千光寺	94	284.8	74	経文	造立經緯・願主	願文・供養者・右工名
2	寛政3	1791 常楽寺	(88.6)	(268.5)	65	経文	造立經緯・願主	九月真言丸子・左石工名
3	寛政7	1795 刀尾寺	91.7	277.85	60	「宝篋印塔」	光明真言梵字	経文・供養者・願主・造立經緯
4	文化2	1805 犬樹寺	86.75	263.5	49	「宝篋印塔」	造立経緯	経緯・経文?

「経文」は、宝篋印陀羅尼経

(2) 伝右衛門の特徴と推移

伝右衛門は2代にわたることが判明した。また、石工銘の検討から、ある時点をもって代替りしたのではなく、2人の伝右衛門がそれぞれ伝右衛門を名乗る重複期間があったとみられる。よって、それぞれにおいて特徴等の変化を見る必要がある。

初代伝右衛門勝行は、天明6年千光寺宝篋印塔、寛政7年刀尾寺宝篋印塔を製作した。この間10年間である。千光寺において宝篋印塔で初めて基礎四脚化+支え石という立体化を行い、また基礎文様に初めて浮彫文様を採用した。刀尾寺では立体化・浮彫文様が消え、様相を異にする。この様相は常願寺川石工が製作する宝篋印塔に近似しており、発注者における意図が反映している可能性がある。

2代伝右衛門吉忠は、寛政3年常楽寺宝篋印塔を製作した。立体化・浮彫文様は初代を踏襲しており、初代との変化は、基礎側面・支え石における文様構成であり、基礎側面における牡丹+獅子狛犬の消滅と支え石における祥雲文の加飾である。

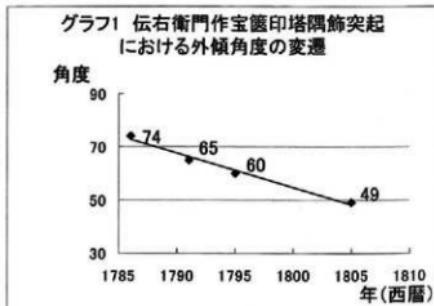
2人の伝右衛門に共通した特徴は、笠の隅飾突起が大きく外傾することである。この外傾度の変化をみたものがグラフ1である。年代の経過とともに、次第に起きあがってくることがわかる。常願寺川石工においては、寛政後期以降製品が増加していく。その変化をみると、年代の経過とともに次第に外向性に広がっていくという、全く反対の傾向を示している〔富山市教委埋文センター編2012〕。

一方、銘のない抵樹寺では、常願寺川石工製作宝篋印塔群における隅飾突起外傾角度の傾向に含まれず、部分改修もしくは常願寺川石工以外の石工による製作の可能性を想定した〔富山市教委埋文センター編2012〕。同塔ではまた常願寺川石工が幕末まで採用していない龍文が採用されている。この2点についてみると、隅飾突起外傾角度は伝右衛門の3基の近似曲線の延長上にあり、龍文は伝右衛門が初期塔に採用しておりメインの文様である。以上により、抵樹寺宝篋印塔は伝右衛門製作によるものと推定しておきたい。おそらく2代吉忠の作と思われる。

(3) 伝右衛門の工房地

伝右衛門は、千光寺では「越中富山住人」、常楽寺では「富城住人」となっているので、富山城下町内に工房を置いたことがわかる。ただし、城下町内のどこに工房を置いたかは情報がなく不明である。

富山町石工における工房所在地の表記についてみると、「富山」の表記は、伝右衛門の天明6年が最も古く、別の石工では、天保3(1832)年見上兵右衛門が本誓寺境内自然石碑に刻銘するまで、46年も経過している。「富城」の表記は江戸期には他に例がない。城下町内の町名表記は、天保10年利波の自然石形石仏(道標)に林田喜助が「太田口」と刻銘するものが最初である〔古川2012a〕。



(4) 伝右衛門の分布 (図4)

伝右衛門作例は、工房のある富山町内にはなく、最も近いのが刀尾寺例であり、1里弱(3.5km)である。その他の3例は3~4里以上の遠距離にある。常願寺川石工や富山町石工のうち複数の石造物を製作している石工らは、1里以内の近在地に集中する一方で、3~4里以上の遠距離に分布するものも認められている。このような状況が一般的であったとすれば、伝右衛門の分布状況は、近在地が少ない点で特殊な方といえる。

4 宝篋印塔製作における伝右衛門の位置づけ

富山町周囲における宝篋印塔製作は、主として神通川石工・常願寺川石工・富山町石工が担

っていた。佐伯伝右衛門はそれらのうち、最古の石工名として位置づけられる。宝篋印塔における石工名刻銘の開始年代は、富山町石工では1786年から、常願寺川石工では1797年から〔富山市教委埋文センター編2012〕、神通川石工では1858年から〔古川2011〕であり、富山町石工が最も古いといえる。

のことから、伝右衛門は、常願寺川石工中川甚右衛門と同様、富山町石工において初めて石造物に石工名を刻銘するとともに、基礎に四脚十支え石という立体化、及び龍文・波涛文・祥雲文等浮彫文様を取り入れることで、富山町石工の伝統基盤を作る契機となった人物であると評価できる。

浮彫文様には、龍文・祥雲文・波涛文をメインとし、牡丹+獅子狛犬や四足動物の兎を配置する。龍や獅子狛犬の神獣は吉獸でもあり、波間の兎はいわゆる波兔と呼ばれ、月の精としての兎に子孫繁栄・豊穣等を与える瑞獸として扱われ、また火防・火除けの守りともされている。これらは総じて吉祥をあらわす吉祥文と理解される。吉祥文は、以後常願寺川石工が積極的に採用し、波涛文・祥雲文は常願寺川石工中川甚右衛門が文化6(1809)年頃から取り入れ〔古川2011〕、龍文は唯一北野甚蔵〔古川2013〕が弘化2(1845)年以降取り入れた。以上により、伝右衛門が採用を開始した吉祥文は、神通川石工から常願寺川石工への継承がなされ、常願寺川石工における個々の石工において選択・変容が行われたものと理解される。

おわりに

本稿では富山町石工佐伯伝右衛門の製作石造物について見通しを示したものである。個々の石造物についての詳細な記録化はこれからであり、調査の結果見直す必要が生じる可能性があることを付記しておく。

本稿の作成にあたり、尾田武雄氏、西井龍儀氏、千光寺・常樂寺・刀尾寺・祇樹寺各寺ご住職の協力を得た。記して感謝申し上げる。

引用・参考文献

- 尾田武雄 1995 「芹谷山千光寺周辺の石造物中間調査報告」『土藏』第8号 研究資料館土藏友の会
富山市教育委員会埋蔵文化財センター編 2013 『富山市内石造物等調査報告書』
古川知明 2011 「神通川石工とその周辺—近世石工と在地石材—」『大境』第30号 富山考古学会
古川知明 2012a 「近世富山町石工について」『富山市の遺跡物語』第13号 富山市教育委員会埋蔵文化財センター
古川知明 2012b 「富山県東部における近世石造物研究—主に石工研究から—」『北陸の石造物—研究の現状と課題』石造物研究会
古川知明 2013 「常願寺川石工北野甚蔵について」『大境』第32号 富山考古学会

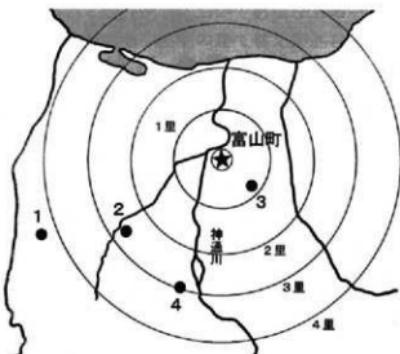
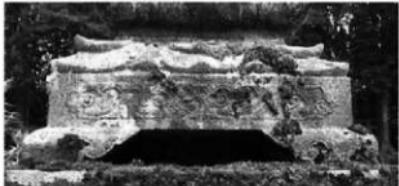


図4 佐伯伝右衛門作石塔の分布

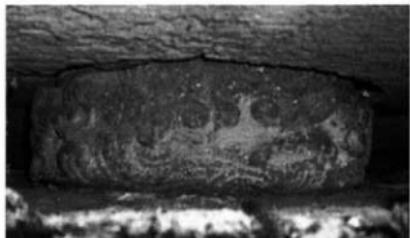
1:千光寺、2:常樂寺、3:刀尾寺、4:祇樹寺



千光寺宝箧印塔（南正面）



千光寺宝箧印塔 基礎 祥雲文



千光寺宝箧印塔 基礎支脚



千光寺宝箧印塔 基礎2段目 石工銘



千光寺宝箧印塔 基礎2段目 菊花文・動物文（獅子狛犬）



常楽寺宝箧印塔（西右側面）



常樂寺宝箧印塔 隅飾突起



常樂寺宝篋印塔 基礎支脚



常樂寺宝篋印塔 基礎祥雲文



常樂寺宝篋印塔 基壇 石工銘



刀尾寺宝篋印塔 笠・軸1



刀尾寺宝篋印塔（北正面）



刀尾寺宝篋印塔
基壇 石工銘



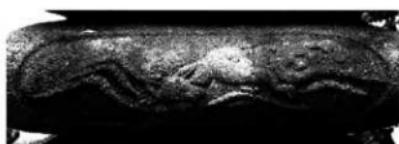
抵樹寺宝篋印塔（北正面）



笠 隅飾突起



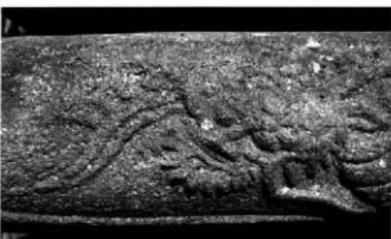
講花・綾頭形・反花・基礎（西面）



綾頭形（敷茄子）波濤文・動物文浮彫（南面）



綾頭形（敷茄子）龍文浮彫（西面）



綾頭形（敷茄子）龍文浮彫（龍頭部分）

富山市教育委員会埋蔵文化財センター所報

富山市の遺跡物語 第14号

平成25（2013）年3月29日発行

編集・発行：富山市教育委員会埋蔵文化財センター

〒930-0091 富山市愛宕町1-2-24

TEL 076-442-4246 FAX 076-442-5810

E-mail:maizoubunka-01@city.toyama.lg.jp

印刷：スカラ・ファクトリー